

2020 年度 自動車リサイクルの高度化等に資する
調査・研究・実証等に係る助成事業
事業名：自動車リサイクルの現場を活用した周知活動

報告書

2021 年 3 月 31 日

NPO 法人 RUM アライアンス

担当者連絡先

担当者名：鳥本俊和

部 門：事務局

電話番号：03-6215-8222

メールアドレス：secretariat@rum-alliance.com

はじめに

本事業は、自動車リサイクルを一般の方々や次世代を担う全国の小中高生に広く知っていただくことを目的とする。

現状では自動車リサイクル業の存在を知る一般の方は少ない。愛車の使用後に関心を持つ人も少ない。リサイクル事業を営む者にとって、自動車リサイクルの周知は自らの仕事と意義を知っていただく活動にもなる。そこで「自動車リサイクルの現場を活用した周知活動」として、リサイクル現場及び SNS を通じて、使用済み自動車の適正処理とリサイクル、資源の有効利用を広く周知する事業を提案するに至った。

NPO 法人 RUM アライアンス（以下、略称 RUM）は、自動車リサイクルの現場を担う事業者が 2005 年に設立し、以来、不特定多数の個人及び団体に対する自動車リサイクルの社会教育活動と広報活動を事業として取組み、また静脈産業として都市鉱山からの資源循環の一端を担う事業活動を続けている。

会員の中には 10 年も前から広報活動の一環として工場見学の受入れに取組み、リサイクル現場を通して周知活動に取組んでいる会員もある。RUM はこれを手本に見学の受入れを開始し、2019 年には 9 社が取組みに参加している。

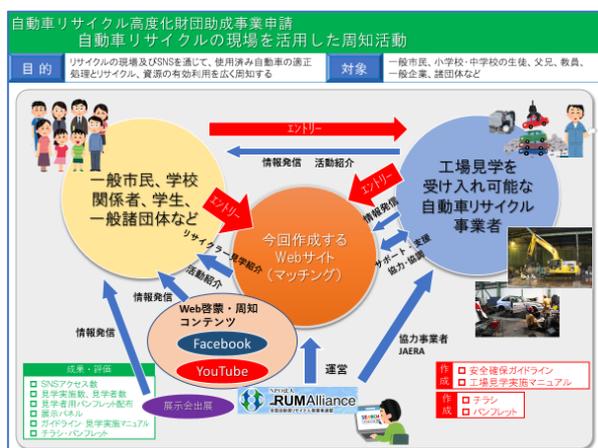
リサイクルの周知方法はいろいろあると思うが、感動を持って理解していただけるのは工場見学の機会によると確信している。現に、見学に訪れた方からは「知らなかった」「感動した」「未来に役立つ仕事」等の感想が寄せられる。こうした取組みを業界に広げるため RUM は一般社団法人日本自動車リサイクル機構（以下、略称 JAERA）の協力を得て、SNS を通じて自動車リサイクルを見える形で周知し、見学の希望を喚起し、希望者に受入企業を紹介する 3 か年の活動を提案した。プロセスの概要は以下の通り。

初年度は、工場見学過程を動画に作成し、YouTube と SNS での発信を行いつつ、一般の参加希望者や学校関係者などと受入可能な自動車リサイクル企業とをマッチングさせるサイトを作り、受入企業 20 社を目標とする。

2 年目は、初年度の取組みを継続しつつ、受入企業を 50 社まで増加する。

そして最終年度では受入企業を 100 社に増やし、さらに 2 万人の見学者をリサイクル工場にお迎えできるようにする。

下に本事業の関係先と取組みの流れを図式化した。



目次

| | |
|----------------------------------|-----------|
| 1. 助成事業の計画 | 1 |
| 1.1. 本事業を実施するに至った背景..... | 1 |
| 1.2. 助成事業概要・事業の位置づけ..... | 1 |
| 1.2.1. 助成事業概要..... | 2 |
| 1.2.2. 事業実施体制..... | 3 |
| 1.2.3. 事業の実施スケジュール（工程表）..... | 5 |
| 2. 事業報告 | 8 |
| 2.1. 助成事業実施結果..... | 8 |
| 2.1.1. 自動車リサイクル周知分科会の開催..... | 8 |
| 2.1.2. 工場見学受入調査と受入企業のマップの作成..... | 9 |
| 2.1.3. 見学受入企業のマニュアル作成..... | 12 |
| 2.1.4. WEB関係（動画の制作）..... | 16 |
| 2.1.5. WEB関係（サイトの制作）..... | 17 |
| 2.1.6. WEB関係（SNSの作成）..... | 19 |
| 2.1.7. 工場見学者向け小冊子の作成..... | 21 |
| 2.1.8. 工場見学受入実績集計と回収..... | 22 |
| 2.1.9. 工場見学受入担当スキルアップ研修..... | 24 |
| 2.2. 2020年度実施結果を踏まえた考察..... | 26 |
| 2.2.1. 実施過程で把握した問題点..... | 26 |
| 2.2.2. 2020年度事業の効果..... | 27 |
| 2.2.3. 現状の課題と想定される解決方法..... | 28 |
| 3. 2021年度以降の助成事業の展開 | 30 |
| 3.1. 想定する事業の内容..... | 30 |
| 3.1.1. これから取組む事業の内容..... | 30 |
| 3.1.2. 当初計画からの変更点..... | 32 |
| 3.2. 事業の実施体制..... | 34 |
| 3.3. 実施スケジュール..... | 35 |
| 3.4. 資金計画..... | 36 |

資料編

○工場見学受入アンケート（調査）

- 1 RUMからのアンケートの依頼状と調査用紙
- 2 JAERAからの調査協力依頼のメルマガ原稿
- 3 再調査の依頼状
- 4 アンケート結果の報告（JAERA宛、12月1日）
- 5 アンケート回答者（社）へのお礼状3種類
- 6 見学受入会社への新設サイトの案内
- 7 見学受入企業の紹介ページのフォーム
- 8 新設サイト「自動車リサイクル工場見学紹介」一般公開のご案内

○受入企業の手引き作成

- 9 見学受入の手引き
- 10 感染症対策ガイドライン

○小冊子作成

- 11 小冊子のデータ

○見学受入実績の集計

- 12 例示：2020年8月見学受入報告（会宝産業）
- 13 自動車リサイクル工場見学実施報告書（月次）

○見学受入担当者スキルアップ研修

- 14 工場見学受入担当者スキルアップ研修並びに意見交換会のご案内
- 15 工場見学受入担当者スキルアップ研修並びに意見交換会の次第
- 16 工場見学受入担当者スキルアップ研修参加企業名
- 17 工場見学受入担当者スキルアップ研修受講アンケート

1. 助成事業の計画

1.1. 本事業を実施するに至った背景

自動車リサイクル業種を知る一般の方は少ない。また、愛車の使用後に関心を持つ方も少ない。リサイクル事業を営む者にとって、自動車リサイクルの周知は自らの事業の存在と意義を知っていただく活動になる。現に、工場見学の機会を持った方からは「知らなかった」「感動した」「未来に役立つ仕事」等の感想が寄せられている。

一方、インターネットで「自動車リサイクル工場見学」と検索すると、業界団体、企業のHPがランダムに表れ、見学希望者の迷いを誘う状態になっており、交通整理の必要がある。

RUMでは、自動車リサイクル周知のためには「百聞は一見に如かず」で、リサイクル現場を活用した活動が効果的で、現場見学がスムーズに行われる取組みが重要と考えている。

現在小学校高学年では社会科の授業で日本の自動車工業が取り上げられており、自動車リサイクルについても学んでいる。工場見学で来訪の団体には地域の一般消費者を含む諸団体があり、上記の次世代を担う団体もあり、極めて重要な周知活動になっている。

1.2. 助成事業概要・事業の位置づけ

RUMの会員は、10年前から工場見学の受入れを開始し、2019年では見学者数は115団体、3,446名（この内、小中学生は34団体2,746名）となっている。（表1-1参照）

こうした取組みを業界に広げるためRUMは業界最大の団体JAERAの協力を得て、SNSを通して自動車リサイクルを見える形で周知し、見学の希望を喚起し、希望者と受入企業をマッチングする活動を提案した。SNSを通して自動車リサイクルに関心を持ち、更に工場見学も希望する方とのマッチングを支援するサイト（プラットフォーム）を設け、見学希望の地域にある受入企業を見つけることのできる解り易いサイトを設け、工場見学が業界の周知活動の主力になるよう3か年計画で提案した。

見学来訪者は、最近のデータでは小中学生が多く（2019年80%、2018年83%）、こうした状況を踏まえることも周知活動にとり必要と考える。

一方受入れる企業の側では、来訪者の安全第一の下で受入体制を整備し、見学者が求める成果を満たす取組みが重要になっている。

表 1-1 最近の工場見学の来訪者数（RUM 会員企業）

| | |
|------------|--------------------------------------|
| 2019年（9社計） | 115 団体、3,446 人（内・小中学生 34 団体、2,746 人） |
| 2018年（6社計） | 70 団体、3,703 人（内・小中学生 37 団体、3,055 人） |

1.2.1. 助成事業概要

(1) 3年間の事業概要（本事業提案時の構想）

本事業は、業界最大団体 JAERA の協力の下で、見学受入企業の情報を一元化し、日本各地からの見学希望者と受入企業とのマッチングのための専用サイト（プラットフォーム）を設け、見学者のニーズに沿う学びに繋がる活動を 2020 年～22 年度の 3 か年で実施する。

・2020 年度（初年度）

2020 年度の事業は、工場見学の過程を動画に作成すると共に、工場見学を受入れる企業の情報を掲載するサイトを設けて、SNS を通して周知する。サイト上の見学受入企業数をまず 20 社とする。

・2021 年度（2 年目）

2 年目は初年度の取組みを継続しつつ、見学受入企業を 50 社まで増加する。

・2022 年度（3 年目）

工場見学受入企業 100 社超を目指し、47 都道府県の各々で 2 社以上を実現する。この目標に向かい WEB のコンテンツ等を見直し、修正する。見学来訪者数年間 2 万人以上を目指す。

(2) 2020 年度事業概要

見学希望者と受入企業の出会いをスムーズに成立させるための仕掛けを構築し、見学希望者を呼び込み、同時に受け手となる見学受入企業を各地に増加させるため、次の活動に取り組む。

- ① リサイクル工場の見学過程の 3 から 8 分の動画を作り、YouTube と SNS を使ってリサイクル工場に関心を持つ方の呼び込みを図る。
- ② 新たに見学希望者と受入企業のマッチング（出会い）のサイト（プラットフォーム）を設け、リサイクル現場見学への行動を促す。
- ③ JAERA の協力の下、業界主要企業の見学受入れの有無を調べ、受入可能企業の地域マップをサイト上に作成する。（目標 20 社）
- ④ 見学受入企業には、受入経験豊富な企業のノウハウを基にマニュアルを作成する。
- ⑤ 工場見学者に分かりやすく説明できるように、小冊子を作成する。
工場見学には一般の団体と小中学生の団体（教育関係）があるが、最近の見学訪問者の割合を勘案して、リサイクルについての小冊子作成の際には留意し、まず小学校高学年生に理解できる内容で制作する。
- ⑥ 工場見学の際、お迎えするスキル向上の為、受入企業担当者の集合研修を実施する。（年 1 回）

1.2.2. 事業実施体制

RUM の自動車リサイクル周知分科会（リーダー近藤高行・会宝産業㈱代表取締役）は、本事業を担う組織で、委員はこれまで工場見学の受入れに取組んできた RUM 会員の代表者並びに有志で構成する。本事業提案時には 7 名で構成したが、その後 11 名となり、所属企業の人事異動でメンバーも一部変更があり、現在は次の通りになっている。

表 1-2 RUM 自動車リサイクル周知分科会 委員

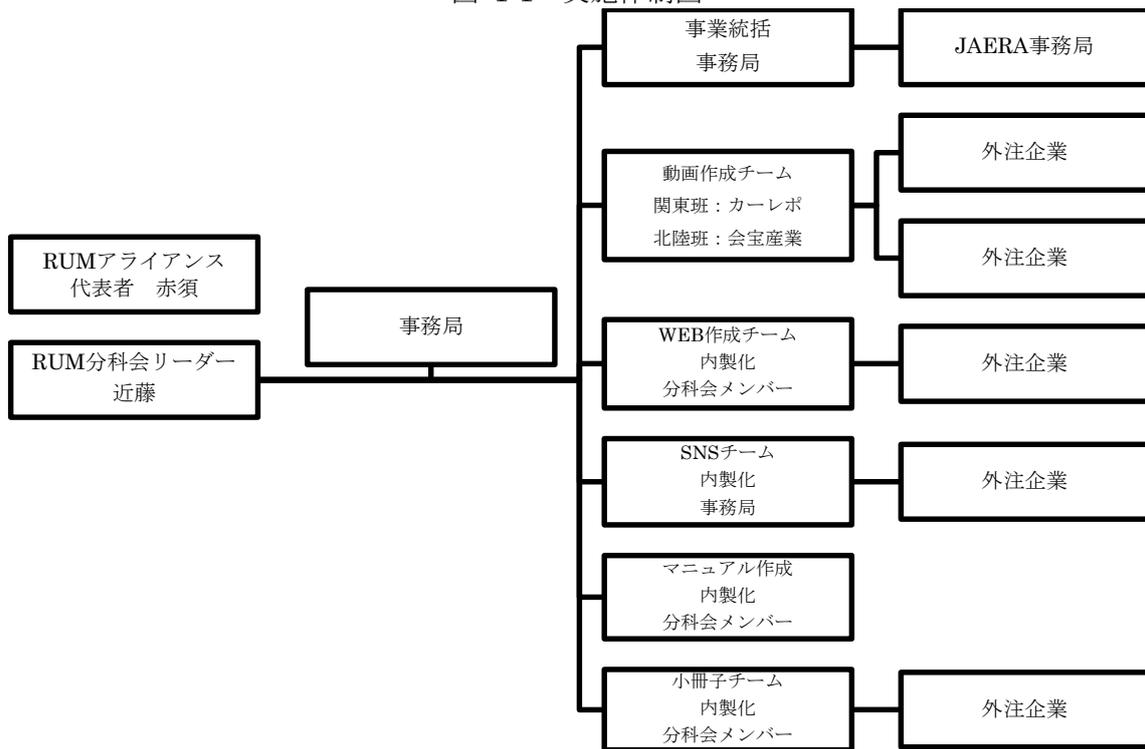
| 委員氏名 | 所属、役職 | 地域 |
|--------|-------------------------|-----|
| 近藤高行 | 会宝産業 代表取締役 | 石川 |
| 伊地知志郎 | オートパーツ伊地知 代表取締役 | 鹿児島 |
| 久保田泰規 | 久保田オートパーツ 代表取締役 | 宮崎 |
| 赤須洋一郎 | カーレポ 代表取締役 | 茨城 |
| 池本 篤 | ナプロアース 代表取締役 | 福島 |
| 中島紀晃 | オートリサイクルナカシマグループ 取締役副社長 | 福岡 |
| 寺田哲次 | テラダパーツ 常務取締役 | 愛知 |
| 浜田篤介 | 浜田 代表取締役 | 大阪 |
| 伊藤孝雄 | KMI 代表取締役 | 岐阜 |
| 梅本静馬 | 国際環境政策研究所 | 東京 |
| (事務局員) | RUM アライアンス | 東京 |

○事務局（2 名 + α 、 α は会員企業から人的支援をいただく）

分科会会合の設営と案内、会計業務、全体に係る進捗管理、広報等に要する制作物の折衝、印刷物作成、その他の業務を担当する。

本事業は 3 年間の継続事業を想定しており、初年度（2020 年度）は、主要な 7 項目の作業に対し、分科会委員が分担することにした。

図 1-1 実施体制図



1.2.3. 事業の実施スケジュール（工程表）

*事業実施工程に関して

提案時計画（当初計画）を黄色マーキング

10月末計画（修正計画）を緑マーキング

そして実績を青マーキングで表示した。

図 1-2 2020 年度工程表

| 作業項目 | 計画/実績 | 3月末 進捗率 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-------------------------|--------|------------|---------------------|-------|------|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| | | | ① 自動車リサイクル 周知分科会 | 提案時計画 | 100% | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| 10月末計画 | ■ | ■ | ■ | ■ | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| 実績 | ■ | ■ | ■ | ■ | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| ② -1 工場見学受入調査 とマップ作成 | 提案時計画 | 100% | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| | 10月末計画 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| | 実績 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| ② -2 受け入れ企業のマ ニュアル作成 | 提案時計画 | 100% | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| | 10月末計画 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| | 実績 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| ③ -1 WEB関係（動画作 成） | 提案時計画 | 100% | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| | 10月末計画 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| | 実績 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| ③ -2 WEB関係（サイト作 成） | 提案時計画 | 100% | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| | 10月末計画 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| | 実績 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| ③ -3 WEB関係（SNSとの 連携） | 提案時計画 | 100% | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| | 10月末計画 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| | 実績 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| ④ 来訪者小冊子作成 | 提案時計画 | 100% | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| | 10月末計画 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| | 実績 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| ⑤ 各月見学受入実績 集計と回収 | 提案時計画 | 100% | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| | 10月末計画 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| | 実績 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| ⑥ 受入担当スキルUP 研修 | 提案時計画 | 100% | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| | 10月末計画 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| | 実績 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| ⑦ その他 | 提案時計画 | 100% | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| | 10月末計画 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| | 実績 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |

・2020 年度（初年度）

- ① リサイクル工場の見学過程の3から8分の動画を作り、YouTube と SNS を使ってリサイクル工場に関心を持つ方の呼び込みを図る。
- ② 新たに見学希望者と受入企業のマッチング（出会い）のサイト（プラットフォーム）を設け、リサイクル現場見学への行動を促す。
- ③ JAERA の協力の下、業界主要企業の見学受入れの有無を調べ、受入可能企業の地域マップをサイト上に作成する。（目標 20 社）
- ④ 見学受入企業には、受入経験豊富な企業のノウハウを基にマニュアルを作成する。
- ⑤ 工場見学者に分かりやすく説明できるように、小冊子を作成する。
工場見学には一般の団体と小中学生の団体（教育関係）があるが、最近の見学訪問者の割合を勘案して、リサイクルについての小冊子作成の際には留意し、まず小学校高学年生に理解できる内容で制作する。
- ⑥ 工場見学の際、お迎えするスキル向上の為、受入企業担当者の集合研修を実施する。（年 1 回）

・2021 年度（2 年目）

2 年目は初年度の取組みを継続しつつ、作成物の維持、修正、管理と受入態勢の充実を図る。

- ① 初年度の作成物の維持、修正と追加
- ② サイトと SNS の運営と管理を継続するとともに、サイトの利用を呼び掛けるチラシを作成する。
- ③ 工場見学受入企業の増加を図り、サイトのマップに加える。
（目標社数、初年度+2 年目増加=50 社）
- ④ 新たに受入れを開始する企業の担当者を中心に集合研修を実施する。（年 2 回）
- ⑤ 見学時の説明に使うパネルを作成する。

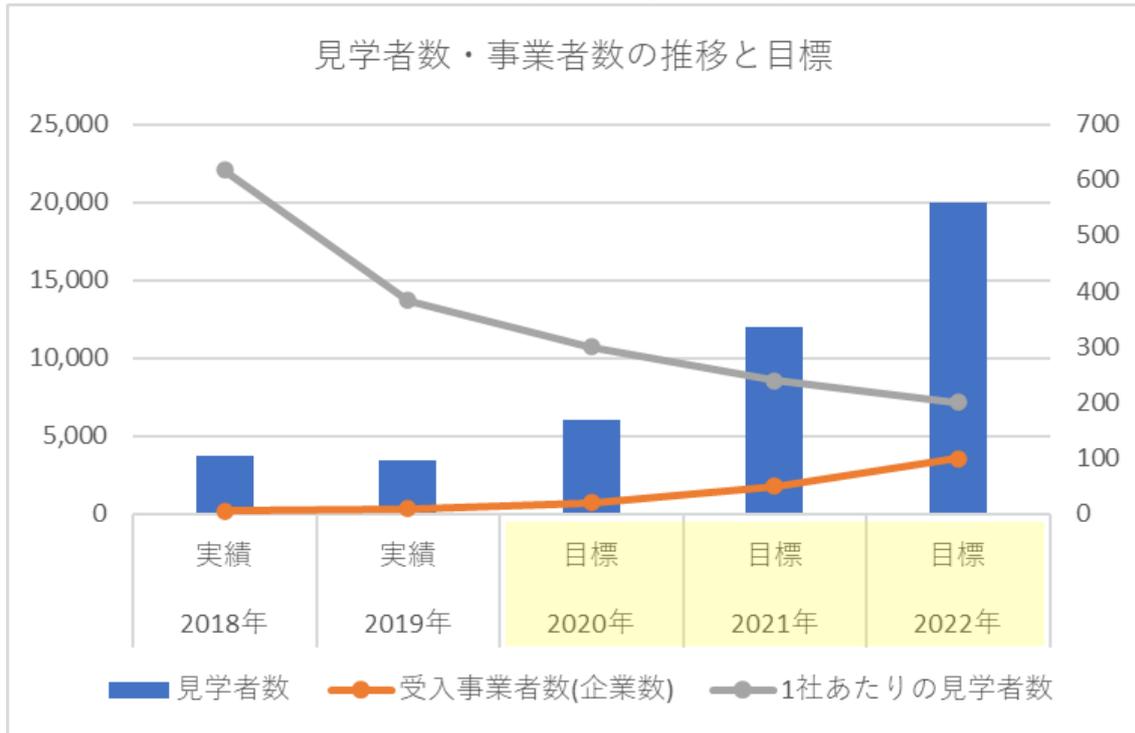
・2022 年度（3 年目）

工場見学受入企業 100 社超を実現し、47 都道府県の各々で 2 社以上を実現する。この目標に向かい WEB のコンテンツ等を見直し、修正する。見学来訪者数年間 2 万人以上を目指す。

表 1-3 3 年計画の見学者数の目標

| | 2018 年 実績 | 2019 年 実績 | 2020 年 目標 | 2021 年 目標 | 2022 年 目標 |
|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 見学者数 | 3,703 | 3,446 | 6,000 | 12,000 | 20,000 |
| 受入事業者数(企業数) | 6 | 9 | 20 | 50 | 100 |
| 1 社あたりの見学者数 | 617 | 383 | 300 | 240 | 200 |

図 1-3 見学者数の目標のグラフ化



2. 事業報告

2.1. 助成事業実施結果

2020年度に本事業において取組む主要事業は7項目で、この内事務局での作業進捗管理を除く6項目については後に述べる事情で提案時の計画より半年の遅れはあるが完成している。

以下に、初年度において本事業で取組んだ各主要作業の実施状況と結果を記載した。

2.1.1. 自動車リサイクル周知分科会の開催

(1) 目的

この事業を担う中心組織で事業の計画から進捗管理を行う。

(2) 分科会の開催（2021年3月15日までに14回）

開催日程と参加者数、決定事項は次の表の通り。

表 2-1 分科会の開催

| 開催日 | WEB会議で 開催 | 参加者 | 結論など |
|--------|----------------|-------|---|
| 5月7日 | 第1回 | 8名 | 事業計画と工程表の組替をする |
| 6月2日 | 第2回 | 8名 | 事業計画、工程表の組替と個々の作業の確認 |
| 6月16日 | 第3回 | 6名 | ・動画制作見積りの検討 ・7月スタート作業2項目(企業調査、受入マニュアル)の取組を議論 |
| 6月29日 | 第4回 | 6名 | 外注WEB関係3作業の発注先を決める |
| 7月16日 | 動画制作 チーム第1回 | 6名 | 制作(北陸版)打合せ |
| 7月20日 | 動画制作 チーム第2回 | 10名 | 制作(関東版)打合せ |
| 7月29日 | 第5回 | 9名 | 試作動画の視聴、修正点確認 |
| 8月19日 | 第6回 | 10名 | 作業工程の確認と各々に担当を決める |
| 9月10日 | 第7回 | 7名 | サイト制作とSNSの制作について議論 |
| 9月30日 | 第8回 | 6名 | ・10月度作業の進捗 ・11月中間報告会の対応について |
| 10月19日 | 第9回 | 8名 | ・10月度作業の進捗 ・11月中間報告会の資料の検討 |
| 11月18日 | 第10回 | 9名+6名 | 中間報告会参加の報告と報告会以降の取組について(オブザーバーも参加) |
| 11月24日 | 第11回 | 7名 | ・小冊子原稿と構成について ・中間報告書について |
| 12月21日 | 第12回 | 7名 | ・小冊子原稿の変更について ・年度報告までのスケジュールについて |
| 1月19日 | 第13回 | 6名 | ・見学受入担当者の研修について ・年度末報告書作成と日程について |
| 3月15日 | 第14回 | 8名 | ・3/1報告会参加の報告 ・2021年度の事業計画 |

*参加者数には事務局3名を加えている。

2.1.2. 工場見学受入調査と受入企業のマップの作成

(1) 目的

自動車リサイクル事業を営む業界において、工場見学を受入れている企業を把握するために業界主要企業の見学受入れの有無と今後の実施につきアンケートを実施する。

(2) 実施の概要

① 調査依頼状と調査用紙（添付資料 1：RUM からのアンケートの依頼状と調査用紙）

JAERA 事務局と 9 月 28 日に WEB 会議で調査用紙と依頼状の素案を基に協議を開始、以後 3 回の協議で、アンケートの依頼書面と調査用紙を決めた。

② 調査の手順

調査は JAERA 会員を対象とするが、調査手段とその対象の絞り込みに関して JAERA から助言をいただいた。

- ・ 従来の調査回答率は、FAX 一斉同報の方がメルマガの 2 倍の率になるので回答率の点で FAX 一斉同報を勧める。
- ・ JAERA からは会員に対し、メルマガで RUM からの調査について協力を依頼する。（添付資料 2：JAERA からの調査協力依頼のメルマガ原稿）
- ・ RUM のホームページにも調査用紙が見られる工夫をして欲しい。

③ 調査の実施

10 月 13 日に JAERA からの名簿 101 社に FAX 一斉同報で調査を実施した。10 月末の集計で回答は 32 社であった。

そこで、回答のあった法人を除く同対象に対して 11 月 11 日に再調査（2 回目）を実施し、11 月末までに（回答締切日は 11 月 25 日）新たに 15 社の回答があり、合計 47 社から回答を得た。（回答率 47%）

- ・ 調査用紙は前回と同じで、依頼文のみ変えた。（添付資料 3：再調査の依頼文）
- ・ 回答率に関して JAERA から外部への調査協力としては良かった方との評価あり。

④ 調査結果

11 月末までの回答 47 社の内訳は次の通り。

表 2-2 工場見学受入れの現状（JAERA 会員 101 社調査、回答 47 社）

| | | |
|---------------------------|------|-----|
| すでに見学を受入れている、これからも受入りたい | 16 社 | 34% |
| 受入れていたが現在中止（主として新型コロナのため） | 15 社 | 32% |
| これまで受入れたことがない、今後もしない（未経験） | 16 社 | 34% |

（添付資料 4：アンケート結果の報告、JAERA 事務局宛）

⑤ 調査回答 47 社に上記の回答内容に応じて 3 種類のお礼状を出し（添付資料 5：アンケート回答者（社）へのお礼状 3 種類）、受入未経験を除く 31 社には、同時に新設マッチングサイトの案内を 11 月中に送付した。（添付資料 6：見学受入会社への新設サイトの案内）

⑥ 11 月 4 日から JAERA の了解の下で、これからも受入れを続けたいと回答した企業 16 社に順次新設サイト「自動車リサイクル工場見学紹介」の受入企業マップを紹介し、情報掲載を呼び掛けた。（添付資料 7：見学受入企業の紹介ページのフォーム）

- ⑦ 12月15日のサイトの一般公開を機に、JAERAの了解の下で上記の未経験を除く31社に対し、改めてメールでサイトへの情報提供をお願いした。(添付資料8:新設サイト「自動車リサイクル工場見学紹介」一般公開のご案内)
- ⑧ 3月末までに新たに8社(9工場)の情報をマップに掲載し、サイトのマップには合計17社(21工場)の情報を収納した。

(3) 今後の進め方

当初から目星をつけていた企業7社に上記の案内をしたが、これからの本事業の展開に関して、重要なアドバイスを2社から得た。

すなわち、「これまで見学を受入れてきたなじみの学校があり、コロナ禍の下では新たな訪問者を加えるよりも、制限していきたい状況にある。」との内容であった。

また、他の1社からはコロナ禍の現状で受入れの拡大はリスクになるとの助言があった。この意見は貴重で、コロナ禍の推移を勘案して無理に数を求める目標は見直しを考慮したい。

業界において工場見学を受入れる企業を順次増加するには業界の協力が必要であり、次の取組みを継続する。

- ① JAERAと共に業界団体にも協力を要請する。
リサイクル業界の事業協同組合等の団体においてマッチングサイトへの協力を要請する。
- ② 初年度のJAERAを縦の情報とするなら、事業法人は横の情報収集になり、マトリクス的な情報収集により、業界の理解を深め協調して取組むための糸口を掴みたい。
- ③ 初年度調査で見学受入中だがサイトに情報未提供の8社とコロナで中止の15社へは引き続きサイトへの情報提供を呼び掛けていく。

図 2-1 アンケート依頼文と用紙のコピー添付

アンケート依頼文 と用紙

RUMAlliance NPO法人 RUMアライアンス

RUMアライアンス > 工場見学受け入れに関するアンケート

RUMアライアンス
RUMアライアンスについて
わいわいの協賛企業
わいわいの拠点
わいわいの報告
わいわいの活動

- > 地域交流、社会貢献
- > 自動車リサイクルフェア
- > 自動車リサイクル体験教室のご案内
- > 自動車リサイクル体験教室開催

2020年 >

- ・ RUMアライアンス事業報告書の発行

2019年 >

- ・ RUMアライアンス新社会員の募集
- ・ 2019年自動車リサイクルの振り返り

2018年 >

- ・ RUMアライアンス地方部会・工場見学部の開催
- ・ RUMアライアンス新役員選挙のご案内
- ・ 2018年自動車リサイクルの振り返り

2017年 >

自動車リサイクル事業を営む企業の皆様へ

工場見学受け入れに関するアンケートのお願いです。

工場見学受け入れに関するアンケートお願い状 [PDF]

WEBでのご回答はこちら
(アンケートフォームのページに移動します。)

FAXでのご回答はこちら (アンケート回答用紙) [PDF]

RUMが提案した自動車リサイクルの現場を活用した周知活動
(提案書案文) [PDF]

ご協力をよろしくお願いたします。
NPO法人RUMアライアンス

2019年10月

自動車リサイクル事業を営む企業の
代表取締役様 へ

NPO法人 RUMアライアンス
代表理事・役員第一部
(メールの宛先は別紙)

署名：一般社団法人日本自動車リサイクル機構

自動車リサイクル周知のための
工場見学のお受け入れに関するアンケートのお願い

NPO法人RUMアライアンス(简称：RUM)は、この度一般社団法人日本自動車リサイクル機構(略称：JARS)からの協力により、RUMのアンケートを実施することになりました。
この調査は自動車リサイクル業界と工場見学を促進している企業の現状を調べるもので、公益財団法人自動車リサイクル高度化財団のご支援を蒙り実施するものです。
RUMは同財団の2019年公募に「自動車リサイクルの現場を活用した周知活動」を提案し、取組としてご賛同を戴きました。
つきましては、自動車リサイクルの現場、すなわち使用済自動車の入庫から、処理可能な部品を取り出し、業務による解体工程を経て、部品取出しからの資源循環の工場見学についてのご賛同を頂くことが必要となります。そのため、工場見学の受け入れです。
そこで、自動車リサイクル業界で工場見学受け入れの現状を知るため、送付のアンケートを企画しました。このFAXでのお願いと共にJARSのホームページで調査協力者の呼びかけがあります。ご回答はFAXもしくはWEBでお願いします。QRコードを付けてのスマホでの回答もOKです。(アドレス等は調査用紙をご覧ください)
自動車リサイクル事業を広く周知する取組として貴社にご賛同をお願いします。
なお、貴社の RUM 会員企業との工場見学受け入れ協議は別途の通りです。また、本件に対するお問い合わせは RUM事務局(鳥取)までお願いします。
©RUM事務局メール

(印刷) 最近の工場見学の実施数 (RUM会員企業)

| | |
|------------|-----------------------------------|
| 2019年(仮推定) | 101 団体、3,440人 (内・小学生24 団体、2,740人) |
| 2018年(仮推定) | 70 団体、3,700人 (内・小学生37 団体、3,052人) |

*RUMアライアンスは自動車リサイクルの事業者により2009年設立されたNPO法人です。
RUMの印刷はホームページ <http://www.rum-alliance.com>をご覧ください。

9

★FAXでのご回答は、03-6215-8700 (宛名 RUMアライアンス)にご返送ください。

工場見学の受け入れに関するアンケート(2019)

NPO法人RUMアライアンスから自動車リサイクル工場見学の受け入れに関するアンケートのお願いです。
(ご返送したら、FAXあるいはWEBでご返送下さい。)

ご回答
 貴社名: _____
 ご担当者部署名、ご氏名: _____
 ご連絡電話番号: _____
 メールアドレス: _____

●問1. これまでに工場見学を受け入れたことはありますか。
 あり ない

●問2. 工場見学の受け入れが可能ですか。(現状のwithコロナ中のご回答をお願いします。)
 可能 条件が整えば可能 不可能 (→ 問3と問4もご回答ください)

●問3. 問2で条件が整えば可能とご回答いただいた方への質問です。
 どのような条件で受け入れ可能か、または親自受け入れていない理由を教えてください。
 .
 .
 .

●問4. 一回の見学での受け入れ可能な人数について教えてください。
 10人まで 20人まで 30人まで 90人まで 100人まで
 その他(記述式) _____

(調査用紙2枚目に続く)

●問5. 受け入れ条件について(複数回答可)
 学生、学校関係者(小・中学生、PTA関係者を含む) 企業、各種の団体
 一般の方(消費者、地域の関係者など) 不詳
 その他(記述式) _____

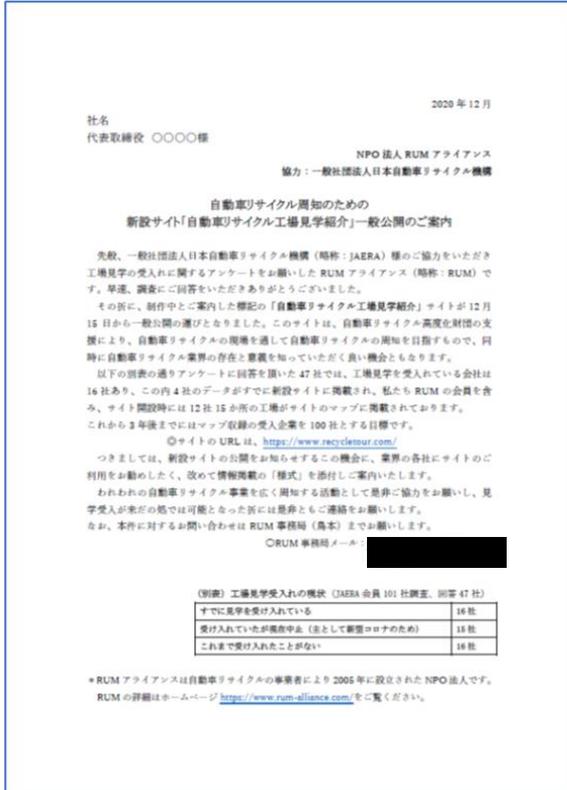
●問6. 問2で「可能」、「条件が整えば可能」とご回答いただいた方への質問です。
 高度化財団の支援で施設見学型の自動車リサイクル工場見学紹介サイト(注1)で受け入れ企業として貴社を紹介させていただくことは可能ですか。(所在地、ホームページ、問合せ窓口程度の情報紹介です。)
 可能 条件が整えば可能 不可能
 ↓
 *それはどのような条件でしょうか。 _____

○注1)上記の文章中の「自動車リサイクル工場見学紹介サイト」について、このサイトは、工場見学の促進と受け入れ可能な企業とのマッチングのために設けるサイトで、公益財団法人自動車リサイクル高度化財団の支援で制作されます。

●問7. 問2で工場見学の受け入れは「不可能」とお答えの方への質問です。
 現在は受け入れできないが将来はできるかもしれない。(そのお考えを下記に)
 (記述式) _____
 今後とも受け入れは考えられない

●問8. そのほか本調査に対するご質問、ご意見等がございましたら以下にご記入ください。
 .
 .
 .

図 2-2 サイト開設案内と情報提供の依頼文



2.1.3. 見学受入企業のマニュアル作成

(1) 目的

見学を受入れている企業の経験と情報を基に、受入れを検討している企業に決断を促す資料として作成する。また受入れを実施している企業の事例を収録し、一層来訪者の期待に応える見学を実施するために作成する。

このマニュアルはこれから受入れに参加する企業の情報も勘案し、変更がし易いようにしていく。

加えて、これまでとは違うコロナ禍での工場見学受入れの新たな留意点を検討し、感染症予防の動画「5つのお願い」と「感染症対策ガイドライン」を姉妹編として作成した。

(2) 作成の進捗

当初受入実績のある企業のマニュアルを基本に作成を開始したが、制作途上で感染症対応が必要になり、動画の制作とガイドラインの作成も課題になり、当初のマニュアルを3部編成として、マニュアルを含み名称を「手引き」とした。

- ・ 10月1日：RUM 会員9社の工場見学受入対応を基に作成を開始した。
- ・ 10月15日：ドラフト版を作成。(データはパワーポイント)
- ・ 10月23日：感染症対策動画「5つのお願い」完成。

動画「5つのお願い」視聴の URL：<https://youtu.be/8I9nuQEJRDI>

- ・ 12月15日までにマニュアルを3部構成に組み替え、名称を「工場見学受入れの手

引き」に変えた。(添付資料 9：見学受入れの手引き)

- ・ 姉妹編の「感染症対策ガイドライン」は会員企業で作成された感染症対策マニュアルを基に、他の企業でも使えるように変更を加えて作成した。(添付資料 10：感染症対策ガイドライン)

(3) 工場見学受入れの手引きの内容

三部構成

1 部：工場見学受入れの意義（受入お勧め編）

見学受入れの事例より、その実際をお知らせし受入れの決断を促す。

- ・ 工場見学の受入れを検討中の工場の方に受入れは難しいことではないことを、実績のある企業の情報を基にお知らせする。
- ・ 見学受入れの実施により、来訪者からいただける喜びをお知らせする。
- ・ 自動車リサイクル事業の意義を周知する取組みであることを理解してもらう。

2 部：安全第一の配慮（マニュアル編）

- ・ これまでの安全第一の取組みに加えて、感染症回避に取り組む。
- ・ 自動車リサイクル工場内の危険箇所とその特徴について
- ・ 来訪者の期待に応えるための受入れ（マニュアル）

3 部：見学を受入れた企業からの反響（嬉しいお話）

- ・ 見学を受入れることにより、来訪者からいただける喜びを知らせる。
- ・ 小中学生の感想文のこと。
- ・ 見学に参加した子供さんから PTA の親御さんを通して、地域との交流が深まる。

姉妹編

- ・ 「感染症対策ガイドライン」
- ・ 動画「5つのお願い」

(4) 今後の進め方

現在の見学来訪者は小中高生で8割を超えているが、小・中・高の各々による違いがあり配慮が必要になっている。これまで受入れてきた会社の担当者の情報では次のような配慮がされているが、その平準化と向上のため更に研修の機会が必要と考える。

① 説明に際しての配慮

来訪の際の説明の言葉遣い、専門用語の解説などで、引率の先生との事前打合せを実施する。小学生の場合は教科書との関連を伺い、中学生の場合は車への関心事項を伺い、説明に取り入れる。高校生と大学生の場合は大人と同様の案内になるが、会社としてはリクルートの関連もあり、職業としての意義を強く織り込むようにしている。

② 安全第一の見学を実施する。

安全な工場見学のための配慮も求められる。小学生の場合は先生の指導が行き渡り、想定した見学行動になる。中学生、高校生の場合は、一部にはみだし行動をする生徒がいる場合があり、事前に先生と十分に打合せをする必要がある（10年以上の受入経験企業からの助

言)。大学生については大人の場合と同様に考えている。

③ 「工場見学受入れの手引き」を充実する。

2021年1月26日開催の「見学受入担当者スキルアップ研修」に資料として提出し、参加者の意見をいただいたが、これからも新たにサイトに参加する企業から意見を頂戴して改良を目指す。

- ・サイトの資料として収納し、受入担当者に引き出せるように仕組む。
- ・受入担当者の次回研修のテーマに、各工場の受入シナリオを検討することになっている。

図 2-3 工場見学受入れの手引き



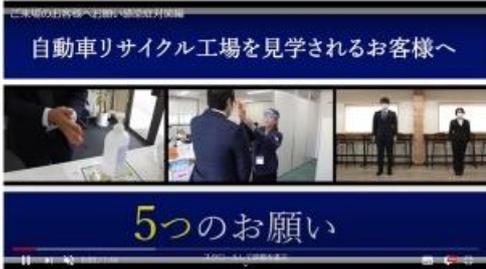
図 2-4 感染症対策動画

感染症対策動画(一部抜粋)

感染症対策動画の内容

- ①マスク、検温、消毒
- ②問診表の記入(2週間前からの体調)
- ③ソーシャルディスタンス
- ④見学時の整列
- ⑤体調が悪い時(見学前後の報告お願い)

自動車リサイクル工場を見学されるお客様へ



1. マスク・検温・消毒



マスクの着用、検温、手指消毒をお願いいたします

2. 問診表の記入



問診票の記入にご協力ください

感染症対策動画(一部抜粋)

3. ソーシャルディスタンス



待機中などは、人との間隔を

4. 見学時の整列



工場内を見学中は、

5. 体調が悪いとき



来社前や見学後に具合が悪くなった場合や

事故やケガ無く
笑顔でお帰りいただけるよう、
ご理解とご協力をお願いいたします

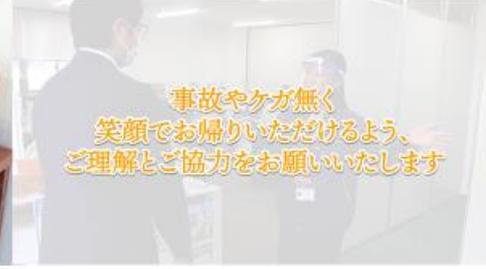
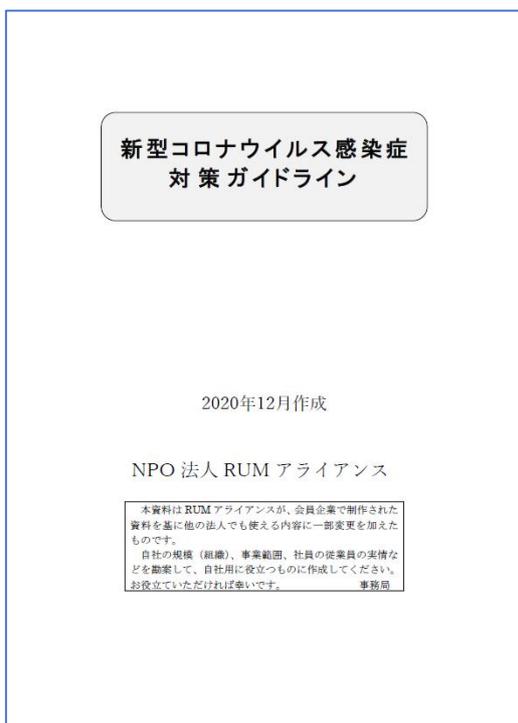


図 2-5 「感染症対策ガイドライン」の表紙



2.1.4. WEB 関係（動画の制作）

(1) 目的

自動車リサイクルの周知にはリサイクルの現場を知っていただくことがベストであり、工場見学来訪の促進を図るため、リサイクルのプロセスを動画に作成し視聴により行動を促すきっかけにする。

また、バーチャル見学の動画として 360 度カメラを採用した映像により、次回こそ実際の見学への行動を促す。

コロナ禍において見学行動に慎重な教育関係者には、まずバーチャル工場見学をお勧めする。

(2) 制作と進捗

- ・分科会内に動画制作チームを設けて、関東班と北陸班に分かれて進行した。
- ・6月～8月関東班は撮影をカーレポ^株で、北陸班は会宝産業^株で実施した。
- ・各班のリーダーと構成員
 - ・関東班：リーダー赤須洋一郎（協力・カーレポスタッフ）、事務局
 - ・北陸班：リーダー近藤高行（協力・会宝産業スタッフ）、事務局
- ・動画3本は9月末までに完成した。

(3) 作業の成果

- ・ 関東班は7月、北陸班は9月に視聴版を完成し、10月 YouTube に公開した。
- ・ 動画の特徴と URL

<https://www.youtube.com/channel/UCUmsSSZ8Vzythrpom168fbQ>

【関東版】(動画時間 予習編 4:22、見学実施編 7:11)

工場見学の予習編と見学実施編の二部構成。

手づくり的な要素で親しみやすい。

【北陸版】(動画時間 8:43)

360度カメラによる見学者の目の動きを意識した画面作り。

小学生(高学年)の見学者向けに教材的になっている。

図 2-6 動画の一部画面



2.1.5. WEB 関係 (サイトの制作)

(1) 目的

本事業の中核となる作業で、自動車リサイクル工場を訪ねるためのお役立ちサイトにする。見学を希望する方と受入れる工場のスムーズな出会いができるサイトを作成する。

(2) 作業の進捗

- ・ 9月 : 工場見学受入企業紹介サイト画面設計開始。
- ・ 9月中旬: 試作版デザインを検討。
: ホームページアドレス決定。

- ・ 10 月末日：システム完成
- ・ 11 月～1 月：工場見学受入企業調査（前記 2.1.2）から、サイトマップへの情報提供に応じていただいた企業情報を順次追加した。
- ・ 1 月：サイトの資料として、小冊子と感染症対策ガイドラインを収納した。

図 2-7 （参考）作成したサイトの画面



(3) 今後の進め方

- ① サイト上のマップに掲載する工場見学受入企業を増やしていく。
 - ・ 2021 年 3 月末で掲載は 17 企業、21 工場になるが、今後協力企業が増加すると共

にサイトマップに情報を追加する。

- ② サイト入場から見学成立までの手順は現状次の通りだが、今後マッチングサイトの修正により変化させる。
 - ・ 希望者→ 希望地域の工場をサイトマップで検索→ 工場の HP と連絡窓口につながる（受入可能人数、受入可能時期の表示も）→ 窓口との連絡（個々の交渉）→ 見学成立
 - ・ 見学に際しての希望は個々により多様なので、直接交渉していただくことにする。
- ③ バーチャル工場見学動画の申込を想定して、受入れの方法をサイトに設ける。
- ④ 教育関係者にサイト開設を周知し、先方の意向を取り入れるための方策を考える。
 - ・ 教育委員会にサイトの案内を送付する。
 - ・ 環境フェアに出展を検討する。
- ⑤ サイトマップの充実と保守管理はこれからも継続して取り組む。

2.1.6. WEB 関係（SNS の作成）

(1) 目的

新設する「自動車リサイクル工場見学紹介」サイトに見学希望者を呼び込むために SNS の活用を検討し、専門家のアドバイスで Facebook が最適と判断した。

車を所有する年齢層をターゲットにする SNS として Facebook の影響力が最大とのデータを考慮した。

(2) 作業の進捗

- ・ 9月18日：第1回打ち合わせと SNS チーム学習会（SNS の基礎知識と運用戦略）から使用する SNS は Facebook にすることを確認した。
（採用理由：実名でありターゲットを絞りやすく年齢層が 40 代前後）
また、SNS の運営支援として外部コンサルのアドバイスを得ることにした。
- ・ 10月中旬：SNS 運用項目の確認シート作成（表 2-3 SNS 運用項目の確認シート参照）
- ・ 10月14日：試作版（一般公開）の作成と分科会委員での検討
- ・ 10月21日：RUM10月例会で公開の報告（視聴）
- ・ 12月16日：SNS 学習会開催（SNS を効果的に活用する要点）
テーマ：「ソーシャルメディア・マーケティング支援サービスの概要」

表 2-3 SNS 運用項目の確認シート

| 検討項目 | Facebook | 備考 |
|----------------|--|---|
| 開設時期 | 10月下旬予定 | |
| 運用目的 | SNSを活用して、動画及び工場の紹介サイトの訴求（自動車リサイクル法制度を知ってもらう） | ブランド認知、事業内容認知、リサイクル普及啓発、ファンとのコミュニケーション、Web誘導、掲示板機能等 |
| 主たるターゲット層・ペルソナ | 自動車を運転する人 20代～60代 男女問わず代表的なペルソナをつくる。 | 多言語に翻訳した動画も同時に掲載する |
| 投稿・運用トンマナ | 初回は週一回の発信を目指す | 初期に運用トンマナ（トーン＆マナー）を確立させる |
| KPI（目標） | 年度内のネットワーク化 2000人 | |
| KGI（ゴール） | RUM及びJ-farの活動を知ってもらう | |
| 投稿計画 | 週一回の投稿計画 | 投稿頻度、投稿スケジュール、イベントに合わせた投稿計画等 |
| 主たる投稿内容・テーマ | 自動車リサイクル法制度について | ニュースリリース、取組み内容、NPO参加企業紹介、リサイクル啓蒙等 |

(3) 今後の進め方

12月に開催したSNS学習会で、効果的に活用する3つの要点を学んだ。

- ・ 発信する情報量
- ・ 発信する体制
- ・ 発信後のケア

RUMで上記の3点をカバーし、継続的に運営するための体制を検討している。ニュース素材を参加企業間で継続的に集めて公開する体制について検討する。

図 2-8 Facebook の扉ページ



<https://www.facebook.com/%E8%87%AA%E5%8B%95%E8%BB%8A%E3%83%AA%E3%82%B5%E3%82%A4%E3%82%AF%E3%83%AB%E5%B7%A5%E5%A0%B4%E8%A6%8B%E5%AD%A6%E7%B4%B9%E4%BB%8B-102041761690709>

2.1.7. 工場見学者向け小冊子の作成

(1) 目的

工場見学で来訪される方に、見学で体感する学びに加えて、自動車リサイクルについてより深く理解していただくための補助として小冊子を作成する。

これまで RUM 会員企業 9 社で受入れた来訪者は小中高生が多く、小学校高学年の来訪者にもより理解してもらえる内容にする。

また、2020 年のコロナ禍の下で、これまで続けてきた工場見学の参加を躊躇する教育関係者が出ており、新規の方の場合も決断しにくくなることが想定される。こうしたケースの対応としてバーチャル工場見学をお勧めして、その際に資料として制作した小冊子をお届けする（参加者数が把握できる）。こうした使い方にも対応したい。

(2) 作業の進捗

主たる顧客の教育関係者並びに小学校高学年生にも理解できる内容の冊子制作を目指すことにしたが、2020 年 5～6 月に入り学校関係者からの見学予約のキャンセルが 18 校も続く状態となった。

相次ぐキャンセルで今後も教育関係からの見送りが続く想定し、取組みスタートを計画よりも遅らせた。9 月になり見学再開の報を受けて改めて作業を次のように進めた。

- ・ 9 月 25 日：小冊子目次協議、体裁決定（A5 版 12P）。
- ・ 10 月 1 日：小冊子内容協議

内容は動画 3 本の内容に沿い、動画＝予習、見学＝体験、小冊子＝確認（復習）として学校での教科書のリサイクル学習の補助になる教材を目指す。

- ・ 11 月 9 日：原稿をそろえた。
- ・ 11 月 27 日：初版
- ・ 12 月 24 日：校了
- ・ 1 月 10 日：完成

(3) 小冊子の内容

小冊子「自動車リサイクルの話をしよう～私たちの現場から～」

- ・ 目次
- 自動車リサイクルってなあに？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 使用済みの自動車はどうなる？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 工場見学してみよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 産業とリサイクルの関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 自動車リサイクルと私たちの未来・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 世界の自動車を再資源化する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

分科会で小冊子の訴求する柱を一本にすることで、小学生も学んでいる SDGs に絞り

込むことになった。

(4) 今後の進め方

完成した 5,000 部をこれからの見学受入れとバーチャル見学に応じて配布する。

図 2-9 小冊子の表紙（添付資料 11：小冊子のデータ）



2.1.8. 工場見学受入実績集計と回収

(1) 目的

新設サイト「自動車リサイクル工場見学紹介」の効果を把握するため、工場見学受入の際、当該企業から報告（月次）を受け集計するための様式を作成する。

見学来訪者数と見学者の所属など詳細についても記録する。

(2) 作業の進捗

① 当初の計画

初年度は 9 月から開始し翌年 3 月までの実績を集計するとした。しかし、サイトの公開が 12 月 15 日となり、加えて 12 月の見学受入れはほとんどなく、年明け 1 月～3 月も学校関係からの来訪は皆無になったため、集計はできない状態が続いた。

そこで、1 月 26 日開催の受入担当者研修の時に集計様式の試作版を準備し、担当者の意見を織り込んで集計様式を作成した。

上記の事情で、次に示す 2020 年度の見学実績の集計は、新設サイトによるものではなく、すべて従来の電話とメールによる見学依頼であり、報告も従来の電話とメールによる集計になっている。

② 2020 年度の見学受入れは次の通り。

- ・ 2020 年度合計：1,702 人（小中高生 1,604 人、94%）
- ・ 上期の実績（2020 年 10 月末実績）：520 人
 - 会宝産業（石川県）：22 組 77 人（添付資料 12：見学受入報告）
 - 久保田オートパーツ（宮崎県）：上期は 18 校の予定がコロナ関係でキャンセルになった。同社は 10 月から受入れを再開し、10 月中に 6 校 443 人を受入れた。
- ・ 下期（11 月～3 月末まで）の実績：1,182 人
 - 久保田オートパーツ（宮崎県）：小学校 9 校（1,088 人）
 - ナプロアース（福島県）：小学 5 年生（32 人）
 - カーレポ（茨城県）：県立高校生（22 人）
 - オートリサイクルナカシマグループ（福岡県）：小学生（16 人）
 - 会宝産業（石川県）：一般（24 人）

③ 作業の進捗

- ・ 受入担当者研修の意見交換の折に試作した報告書様式を説明し、使い易いとの評価を得ている。（添付資料 13：工場見学受入報告書・月次）

(3) 今後の進め方

① 今後の見学受入れの見通し

前述したように 1 月から年度末までの受入れはまれになる。教育関係者は年度を挟み、人事異動で、学校行事が確定するのは 5 月連休前後になる。（教育関係者からの情報）

したがって、初年度に制作した仕組みが試されるのは本事業の 2 年目となる。サイトを活用する取組みが本事業 2 年目の最大の課題となる。

② リカバリー策

コロナ禍の推移によってはバーチャル見学を推奨する。バーチャル見学は、標準的にはサイトのバーチャル工場見学動画の視聴と小冊子を組み合わせ、自動車リサイクルの学習をしていただくこととする。

更に希望によっては、オンラインで説明する時間を設ける。

オンラインでの説明は事前に説明担当者を決める必要があり、コロナ禍での新たな試みにしたい。（オンライン見学についてはこれからの研究課題である。）

更にオンラインで講話（講演）を求める依頼もあり、こうした時にも事前に小冊子を送り、自動車リサイクルについての話をしたい。

事前に参加人数の小冊子の送付を要するが、参加人数を把握できる。

バーチャル見学をコロナ禍の見学方式として、次は実際の見学に結び付くと考える。

2.1.9. 工場見学受入担当スキルアップ研修

(1) 目的

工場見学の受入れに際して、直接対応する担当者（総務部門、広報部門など）の応対が来訪者の満足度につながる。担当者の応接力、会社と仕事の理解度が影響する。そこで同じ立場にある方の集合研修によりスキルの向上を図る。

また、受講人数分の事例があつまり、新しい工夫、試みの事例研究の機会とする。

(2) 作業の進捗

コロナの影響で本事業の取組み全体の遅れがあり、見学受入調査を基に研修を呼び掛けるため、当初の開催計画 10 月を 2021 年 1 月に変更した。

① 取組みの状況

- ・ 10 月初旬：RUM 会員企業で受入実績を持つ企業に講師を依頼した。（㈱久保田オートパーツ）
- ・ 11 月末：JAERA 会員対象に実施した見学受入調査がまとまり、新たな研修呼び掛け企業として、見学を受入れている 16 社とコロナで中止の 15 社の計 31 社とした。
- ・ 新年 1 月 6 日に RUM 会員 8 社と上記 31 社に研修の案内をした。（添付資料 14：研修の案内）
- ・ 受講申し込みは 12 社（13 工場）23 名（当日申込 2 社を含む）

② 見学受入担当者スキルアップ研修並びに意見交換会の開催

- ・ 2021 年 1 月 26 日（火）13:00～15:30
- ・ WEB 会議システム ZOOM を使用した。（添付資料 15：研修の次第）
- ・ 受講生及び関係者は、受講生 23 名、関係者 7 名。（添付資料 16：受講生所属企業名）

③ 研修の内容

- ・ 事例研究：㈱久保田オートパーツの見学受入れの報告とダイジェスト動画
- ・ 説明資料：同社の研修受入準備から見学後のフォローまで
- ・ 工場見学受入企業の手引き（マニュアル）の説明
- ・ 感染症対応：動画と制作したガイドラインの解説
- ・ 小冊子説明：完成した見学来訪者に渡す小冊子の説明
- ・ 意見交換：2019 年からの見学実施の報告を参加企業からいただくと共に、試作した月次の報告書について説明。
- ・ 研修の感想：アンケートに回答を求めた。（添付資料 17：研修受講アンケート）

④ 提出資料

- ・ 「自動車リサイクル工場見学」工場見学受入れの手引き
- ・ 動画「5 つのお願い」
- ・ 感染症対策ガイドライン
- ・ 小冊子「自動車リサイクルの話をしよう」
- ・ 自動車リサイクル工場見学実施報告書（月次）
- ・ 自動車リサイクル工場見学受入担当者スキルアップ研修受講アンケート

(3) 今後の進め方

今回の研修の参加者評価（アンケートの結果）から、これからも研修を続ける（年2回程度）要望のあることが明らかになった。

また、これから見学受入れを開始する会社の担当者にも呼び掛ける必要があり、年2回ほどは開催をしたい。

研修テーマに次回は受入担当者が使うシナリオを検討したいとの要望があった。

図 2-10 研修案内等

2021年1月12日

工場見学受入担当者様

特定非営利活動法人 RUM アライアンス
代表理事 赤塚洋一郎

工場見学受入担当者スキルアップ研修並びに意見交換会のご案内
—自動車リサイクル現場来訪者を通して理解を深めていただくために—

新年あけましておめでとうございます。新しい年を機に是非 With Corona に対応した新たな活動を進めたいものです。

さて、旧年自動車リサイクル高度化財団から採択頂いた事業の一環として、「自動車リサイクル工場見学紹介」サイトの新設 <https://www.iscyle.com/> をご案内しました。このサイトにはこれから来訪者に手渡す小冊子など順次関連する資料を加えることになっております。

つきましては、見学を受け入れている企業の担当者様にこれからのサイトの趣旨と内容をお知らせすると共に、活用していただくための説明（研修）の機会を設け、更に受入業務を担う方の意見交換の場とするために下記の研修会を WEB 会議システムにより企画しました。

年始ご多用の折とは存じますが、次ページもご覧いただき是非ご参加いただけますようお願いいたします。

記

工場見学受入担当者スキルアップ研修並びに意見交換会
○日時：2021年1月26日（火）13:00～15:30
○Web 会議システム「ZOOM」使用
※別紙「参加申込み」を頂いたら前日までに招待 URL をメールでお送りします。
※詳細は、次ページをご覧ください。

○資料等
・参加申込みいただいた方には、前日までに会場で使用する資料（次ページ）をメールでお送りします。
○お問合せ先：疑問等お問合せは次のメールおよび Tel にお願います。
TEL 事務局メール： secretaria@rum-alliance.com
[Redacted]

次ページ ⇒

2021年1月26日
Web 会議システム ZOOM

工場見学受入担当者スキルアップ研修並びに意見交換会の次第

○はじめに
・研修に至る経緯の説明
・本研修と意見交換会の目的

○研修の次第

1. 事例発表・株式会社 久保田オートパーツ（音崎 貴）
10年以上前から工場見学を受入れ年間3,000名以上（2018年）の受入れ会社の事例を動画も含めて発表します。
・発表：久保田オートパーツ 国内部品生産課 池田 清さん
2. 工場見学受入の手引きの説明
見学を受け入れている会社の事例をもとに3部編成で作成した手引きを説明します。
3. 見学時の感染症対応
With Corona の下での感染症対策に対応した見学の受入れの事例を、動画と緊急に制作した感染症対策ガイドラインをもとに説明します。
・説明：カーレボ節 経営戦略本部ブランドマネジメント課 小林奈保子さん
4. 見学来訪者に手渡す小冊子の説明
この度の高度化財団からの支援で制作した小冊子の説明とこれからの活用について意見交換します。
5. その他
・コロナ情勢とバーチャル工場見学の検討について（参加者と検討します）
6. 担当者、関係者の意見交換会

以上

裏面へー

●自動車リサイクル工場見学受入担当者スキルUP 研修受講アンケート

今回の「工場見学受入担当者スキルUP 研修並びに意見交換会」にご参加いただきありがとうございます。今後もこのような研修を続けていく計画しております。つきましては参考のために参加の皆様のご意見、ご感想をお聞かせください。

御社名： _____ 参加者名： _____

・今回の「受入担当スキルUP 研修」の評価を5段階で選んでください。
良かった 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 悪かった

・今回の研修の内容でよかった発表、説明、資料はどれですか。（複数チェックOK）
 事例発表（久保田オートパーツ）
 工場見学受入の手引き
 見学時の感染症予防対策（カーレボ）
 見学来訪者に手渡す小冊子
 意見交換会
 その他（ _____ ）

・どのような点を考慮したら上記の評価のポイント上げることができますか。

・2021年度（4月以降）にはこのような研修を年2回計画しています。ご参加頂けますか。
参加したい ・ 参加したくない ・ 内容による

・この内容が知りたい、こうした方がいい等のご意見がありましたらお書きください。

・その他が研修についての感想を自由にお書き下さい。

○ご回答送付先
・RUM 事務局メール： secretaria@rum-alliance.com ・FAX : 076-238-7633
*お問合せ先：RUM アライアンス事務局 [Redacted]

2.2. 2020 年度実施結果を踏まえた考察

2.2.1. 実施過程で把握した問題点

2020 年度本事業のスタート時にコロナ禍の緊急事態宣言が発出され、初年度の重要作業に位置づけた「見学受入れの企業調査」実施を遅らざるを得なかった。協力いただく JAERA 事務局の助言もあり提案時の 4 月着手を 9 月開始に変更した。またこの調査結果を受けてサイト上のマップ作りが同様遅延した。サイトの一般公開は 12 月 15 日となり、世相はコロナ禍第 3 の波となり、新年に入り再度の緊急事態宣言発出となった。

上記の経緯で本事業の取組みが最大 6 か月遅れ、関連して生じた問題を以下にまとめた。

- ① 本事業で制作した仕掛け（マッチング機能）の実用はこれからになるため、本報告書に記載の 2020 年度の見学受入実績は、見学経験を持つ方が従来のやり方で見学を申し込まれた実績になっていること。

・工場見学の受入数

コロナ禍の上期、RUM 会員会社 1 社が 8 月にトライアル的に工場見学を実施した。

その後、夏季の期間を経て感染者数の減少傾向が報じられ、10 月より RUM 会員で見学を再開する企業があり、2020 年度実績は中間集計（10 月末日）で 520 名の見学者を受入れ、年度集計では 1,702 人（3 月末）となっている。

・受入工場の増加

見学受入企業を 20 社にするというもう一つの目標については、3 月末現在 17 社 21 工場になった。JAERA の会員では見学受入経験を持つ企業は 31 社あり、この内 16 社は見学を継続し、15 社は中止している。継続 16 社の内 8 社に本事業に協力していただいた。

- ② マッチングの機能向上するための付加と修正を要すること。

中間報告会のコメントで、本事業で制作したサイトの機能を、マッチングサイトにする必要があるとのコメントを頂戴した。

そこで、本事業の成否を担うサイトのマッチング機能につき検討したところ、マッチング機能を高めると同時に、サイトマップ内の受入工場の数が少ないことが問題との意見が出された。サイト機能の向上とサイトマップの企業数を増やすことが必要になる。

サイトの機能の修正については、「2.2.3.現状の課題と想定される解決方法」の章で考察した。

- ③ 顧客の便利のためには都道府県レベルのマップができる社数を確保すること。

サイト内のマップに掲載する受入工場（現状 21 か所）を、地方別（例えば関東）の表示から都道府県レベルにすることが顧客から求められる。

都道府県のマップにするには受入工場を少なくとも 47 都道府県の半数近くにする必要がある。空白地域が多いと見栄えが悪く、見学希望者も自分の地域に工場が見当たらないことが多くなる。

今年の業界企業の調査からコロナで受入中止の企業（15 社）の動向が焦点となる。顧客からの要望、すなわち、学校関係、PTA 関係からの「声」を業界に反映させるなら、受入れに踏み切る工場は増加すると考えられる。

バーチャル見学の効用を教育関係者に PR し、見学したい工場をリサーチする。その情

報を業界に伝えていく、こうした取組みが新年度に必要と考える。

④ 印刷物に対する関心の高さと意見集約の困難を伴うこと。

分科会で意見交換に際し、映像関係はシナリオを含めて議論はスムーズに進む。一転、印刷物（小冊子）になると多彩な発言と詳細な指摘が入り、意見集約が困難になる。こうした傾向を踏まえて、スケジュール調整が必要になる。見方を変えると WEB 会議での欠点に繋がるのかもしれない。

2.2.2. 2020 年度事業の効果

初年度には取組む作業を詰め込み、作業工程に追われ続けて年度末を迎え、前記した問題点と課題の 1 年であったが、自動車リサイクルを周知する活動に必要な新たな仕掛けを設け、未だ小さいがリサイクル業界に新しい協調の波を起こす事業になったと考えている。

(1) 事業の有効性

① 申請時に想定した事業の有効性

- ・工場見学の魅力を伝え、希望者と受入企業とのスムーズなマッチングを図るため、リサイクル工場見学の魅力を PR する動画を YouTube に掲載する。
- ・希望者の見学希望（日時、地域等）と受入企業とを結ぶサイトを運営しマッチングを成立させる仕掛けを作る。
- ・これから工場見学がより多く成立するように運営する。

② 本年度事業実施で得られる（得られた）効果

- ・自動車リサイクルのリアルな現場を撮影した動画を 3 本+感染症対応 1 本の 4 本を制作し、2020 年 10 月から YouTube で公開している。以降、2021 年 3 月末までの視聴回数は感染症対応を除く 3 本で合計 2,052 回になっている。
- ・サイトの制作が 12 月になり、もともと工場見学希望の少ない 1~4 月での運用を迎えて、効果を試すことができない状況にある。
- ・2020 年 12 月 15 日のサイト開設以来 2021 年 3 月末日までの訪問者は 333 人となっている。
- ・業界の工場見学受入れに関するサイトをチェックすると、現在最も活発にリサイクル部品を取り扱っている事業協同組合の見学案内が最大で、本事業の 17 社 21 工場の見学案内が拮抗しているとみられる。
- ・コロナ禍収束と共に、本事業で制作したサイトは有効に機能し、自動車リサイクルの周知活動に力を発揮する。
- ・受入企業から感染症対策の動画とガイドラインをすぐに使いたいとの評価をいただいた。（研修会での意見）
- ・小冊子は見学受入企業に配布して、これからの来訪に備えることができる。

(2) 事業の発展性

① 申請時に想定した事業の発展性

この事業は、ネット社会の中でWEB等を活用して、マッチングサイト（プラットフォーム）の充実と工場見学受入れの拡大を図り、年を追って自動車リサイクルの周知を広げる発展性を持っている。

- ・一般の方に工場見学ができることを周知し、工場見学マッチングの専用サイトを設ける。
- ・バーチャルな工場見学体験の動画により、工場見学ができることを知っていただく。
- ・工場見学希望者と受入企業の条件（日時、地域など）のスムーズなマッチングを専用のサイト（プラットフォーム）により実現する。
- ・受入企業の拡大を進める。
- ・業界の最大団体JAERAの協力の下で主力会社において、受入れの可能性について個別に打診し、可能な会社をサイトに加える。

② 本年度事業実施で得られる（得られた）効果

- ・見学希望者と受入企業間の地域、時期、人数についてのマッチング（出会い）サイトを作成し12月15日公開した。
- ・JAERAの協力の下で、受入企業をこれまでのRUM会員企業に加えて新たに8社増加し、これからも拡大する糸口をとらえることができた。
- ・業界の各種の団体との協調関係づくりの第一歩になった。

2.2.3. 現状の課題と想定される解決方法

2020年度の本事業遂行過程で判明した最大課題は作成されたサイトを活用できていないことであり、そこで以下の具体的取組みを2年目に展開したい。

① サイトとマッチング機能の修正について

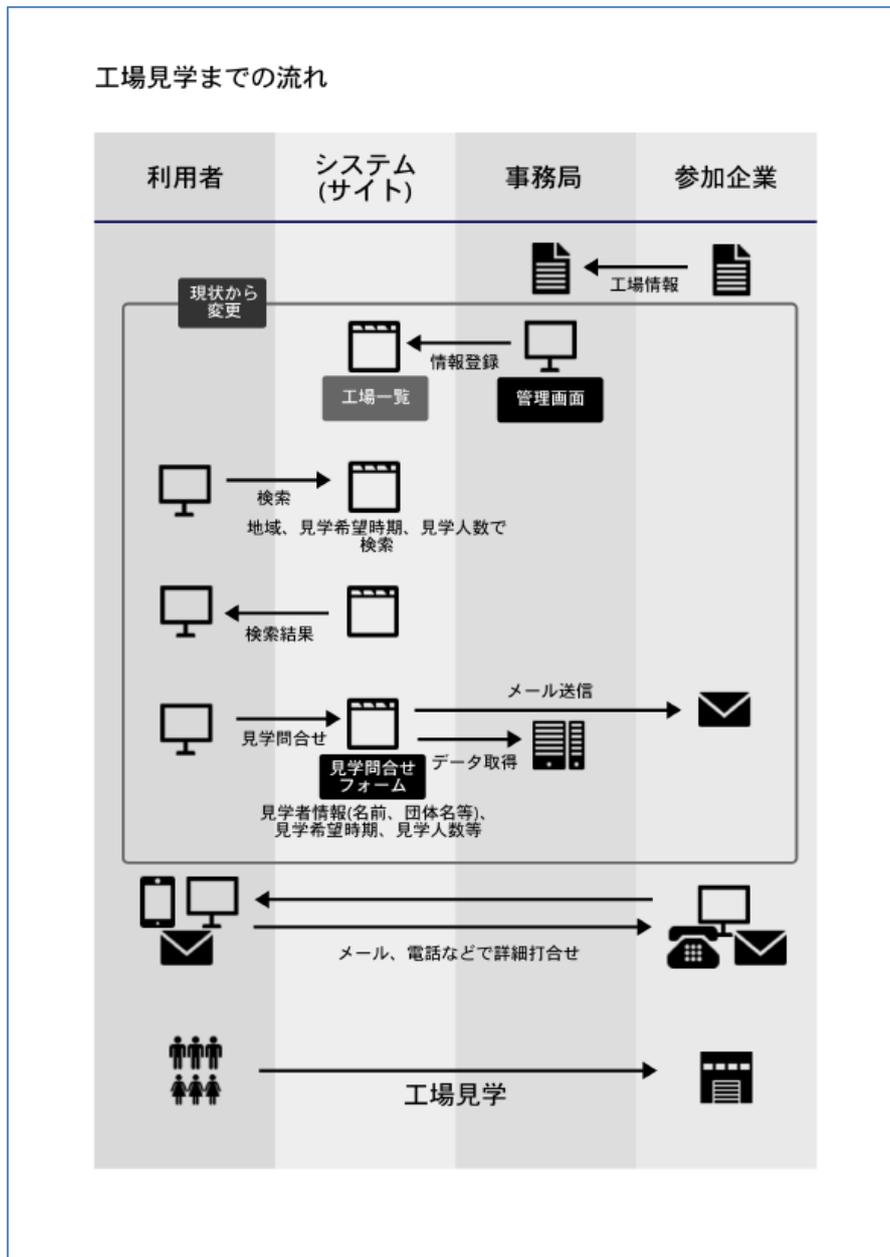
提案時の本事業におけるマッチング機能は、まず出会いを創ることが重要と考え、見学希望者に受入工場を紹介できるサイトを目指すことにした。すなわち見学希望者と受入企業担当者のコミュニケーションの成立を受けて、見学者が、工場の所在地、可能な時期、人数に関する情報を入手できるサイトにした。費用の面からもまず簡単に作り、必要に応じて付加することを制作社から勧められた。

制作した現在のサイトは、希望する地域の見学可能な工場を紹介すると同時に、可能な時期、人数の上限が示されており、更に人+人のコミュニケーションにより希望者の要望が確実に反映される。

マッチングのイメージをA側（見学希望者）とB側（受入担当者）の相互情報をマッチングするサイトとするなら、今回制作したサイトはA側がサイトに入りB側の情報入手する一方通行になっている。そこには仲介の労（人的行為）、あるいはそれに代わる自動的出会いの仕組みは見られない。そこでマッチング（出会いを仲介する）機能を付加する場合を想定し制作社に修正を相談した。

については、マッチング機能の付加により、サイト訪問者の記録が蓄積され、A側とB側の双方の情報が記録される修正を実現したい。

図 2-11 工場見学までの流れ（修正案）



② サイトマップ上の空白自治体を2分の1以下にする。

本事業1年目で制作したサイトのマップには17企業21工場の情報が掲載されている。しかし、47都道府県の半数に満たず、精巧なマッチング機能の場合希望者が検索しても否定的な答えが想定される。これを解決するには早く47都道府県の半数以上のマップにしたい。2年目の課題となる。

3. 2021 年度以降の助成事業の展開

3.1. 想定する事業の内容

3.1.1. これから取組む事業の内容

新型コロナウイルス及びその変異株への対応のため、政府の緊急事態宣言、まん延防止措置が続いており、本事業の中核となるリサイクル工場見学は、実施できない状況が続いている。

本事業で構築した仕掛け（サイト）の完成が6か月遅れたため、利用は初年度には間に合わなかった。

完成したサイトの利用を促進することが2年目の課題であり、サイトの機能アップと共に、見学希望者と受入企業の両方の増加を図る活動として、具体的にはサイトのマップを都道府県レベルに展開できる工場数の情報を確保する。

見学希望者側は、市町村の教育委員会への働きかけで、受入工場の増加は業界企業への呼び掛けにより各々の情報を集めることになる。

① サイトの利用を促進するための取組み

初年度に完成したサイトの利用を促進することが2年目の主たる取組みになる。

活発に利用していただくには、見学希望者と受入企業の両方の増加を図ることが必要で、受入側は、サイト上のマップを都道府県レベルに展開できる工場数を確保するため、業界企業に呼び掛けることが必要になる。（業界の事業組合に協力を呼び掛けている。）

見学希望者側の呼び掛けには、主たる目標として教育関係者に絞って、市町村の教育委員会（全国 1,724 のうち、サイトマップに掲載されている工場所在地の市町村教育委員会）へサイト開設の案内とバーチャル見学についてのチラシを送付する。

また、マッチング機能を高めるためにサイトの修正を実施する。

② SNS（Facebook）に定期的に情報を送る体制を整えて検索数を増やす。

発信する情報量、発信する体制、発信後のケアが課題といわれている。現在担当者1名を決めているが、体制として運用を進めたい。

③ サイト開設の案内とバーチャル見学についてのチラシを作成し、バーチャル見学の依頼があれば、動画の視聴と小冊子の組み合わせによる標準的なバーチャル見学に加えて、希望によりオンラインでの会社説明も実施する。この実現には、受入各工場の準備と担当者の平準化を図るための研修も伴うと考えている。2年目の受入担当者研修の課題とし、実現していきたい。

また、RUM 会員にはオンラインによる講話（講演）の依頼もあり、すでに2月26日に私立高校から2年生600名に対して60分の講話を実施した。こうした多様な方法によりバーチャルな見学会を実施し、周知活動の一環として取り入れていきたい。

④ 必要に応じて初年度制作物（主として小冊子）の増刷をする。

⑤ 工場見学受入れの手引き（マニュアル）を修正して、必要に応じて印刷する。（現状は

未だ受入企業が少ないのでデータで配布している。)

⑥ 見学受入担当者の研修と意見交換会を年 2 回開催する。(上期 7 月、下期 11 月)

⑦ 見学訪問者に自動車リサイクルを説明する補助としてパネルを制作する。

⑧ 小中高生と共に大人への周知活動も展開する。

近年 3 年間の見学訪問者は、先生に引率される小中高生が 80%以上を占めているが、自動車免許証を持つ大人への周知活動も進めたい。

大人に情報が伝わる機会については、2 年目の取組みに記載したように、教育関係者への呼び掛けを実施する。教育関係者は各々ネットワークを持っており、このネットワークが利用できるようにしたい。以下にこの 2 月以降の大人への呼び掛け事例を報告する。

(事例 1) 高校教諭から「高等学校商業教育研究会」活動のための講師派遣(オンラインによるリモート研修)の要請が RUM 会員企業に寄せられ、2 月 3 日に 60 分間の講話の機会が持たれた。

RUM 会員で工場見学受入れ 10 年超の経験を持ち、2018 年には 3,000 名超の来訪者のあった企業では、教育関係者の研究会メンバーの見学受入れをきっかけに見学者が急増した経緯があり、先生方の研究会での情報提供は大人子供双方に効果がある。

(事例 2) この 3 月 16 日に RUM 会員企業に、全国から 24 名の経営者が参加する研修一行の見学訪問があった。こうした経営者諸団体の見学受入れは、訪問者のネットワークにより大人の訪問者を増加させる。

(事例 3) 更に、RUM 会員企業の内 6 社が毎年夏休みを中心に「自動車リサイクル祭り」を開催(2020 年はコロナ禍で中止)しており、家族連れを中心に参加者の多い企業では 1 日で 3,000 名を超える参加者がニブラによる自動車解体現場を体感している。参加者の持つネットワーク(商工会、青年団、壮年団、地域の町会、婦人会など)から、大人の見学来訪に結びつけて行きたい。

⑨ バーチャルをリアルの見学に進める工夫を試みる。

2025 年開催の大阪・関西万博はこれから準備が開始されるが、基本計画によると AR(拡張現実)や VR(仮想現実)の技術を活用するという。仮想の会場に分身のアバターで入場し、自由に動き回ることのできる計画であり、アバターで満足できない人が実際に会場に足を運ぶ計画にするという。

我々が目指す本事業の工場見学のリアルとバーチャルも、上記 25 年万博計画の趣旨のようにバーチャル見学の参加者がリアルの工場見学をしたくなる仕掛けを工夫し、実現できるようにしたい。この仕掛けの実現は、25 年を目指す次の 3 か年計画になるのかもしれない。

そこで、すぐにも行動できる現実的な我々の取組みとしては、まずバーチャル(このコロナ禍の中で来社が厳しい学校には動画や 360 度バーチャル工場見学動画)を活用して視聴をお願いする。それだけでは全てを理解することができないので、オンライン講話を取り入れ実施する。説明によりやはり現場で実物と実際を確認したいことが出てくる。そこでコロナ対策も踏まえながら少人数のグループに分けてリアル見学を実施するように順序を進めたいと考えている。

⑩ 本事業を持続可能にする取組み体制を準備する。

本事業にとり持続性がこれからの重要な課題と認識している。特にWEB関係では継続的な情報の提供が検索数に大きく影響する。YouTubeの動画もまた新たな作品追加があるに越したことはない。2021年Facebookの情報はRUM会員企業を中心に情報提供体制を創り、定期的情報の更新を行い、引き続き本事業を3年間実施したその後を展望した事業の継続についても取組みとしたい。

3.1.2 当初計画からの変更点

2020年度の事業結果並びに遂行経緯をふまえ、2021年度は以下のとおり提案時の計画(当初計画)を変更したい。

【当初計画】

2021年度
サイトの受入企業数の目標 50社
見学者数：12,000人
2022年度
サイトの受入企業数の目標 100社
見学者数：20,000人



【変更計画】

2021年度
サイトの受入企業数の目標 25社以上
見学者数：6,000人
2022年度
サイトの受入企業数の目標 50社以上
見学者数：10,000人

【当初計画】

- ・2020年度計画でサイトをPRするチラシの作成経費 18万円を計上したが、作業項目に記載しない不備があった。
- ・2年目 2021年度計画では、パネルを各社2枚を作成することとし、経費 30万円を計上した。



【変更計画】

- ・チラシ作成は 2021年度に見学来訪を呼び掛ける必要なアイテム。前年の経費を改めて計上する。
- ・パネル作成は当初の計画通り 2021年度に取組む。(経費に変動なし)

(1) 2021年度の上記の計画変更理由

① 数値的目標の変更について

コロナ禍の今後が未だ見通せない。

- ・初年度の受入企業数のアンケートで、これまで懇意にしていた経営者から、現状では受入拡大はできないとの返事と共に、この状況下で受入を増やすことはリスクを抱えることになり、BCP(企業存続計画)の上からも止めざるを得ないとの回答をいただいた。回答に説得力があり、これ以上の呼び掛けは無理との思いを持った。

- ・こうした状況の収束がない限り、受入企業を拡大することは無理があり、また声掛けも慎重にしたい。
- ・JAERA の初年度調査で現在受入れを中止している企業等に呼び掛け、現状の 17 社を 25 社以上に増加したい。来訪者についてはバーチャル工場見学動画を使った見学とオンライン説明、及び出張講演（オンラインの場合あり）を含む数にする。
- ・これまでの実績から工場見学の団体来訪者は先生に引率された小中学生が 80%以上を占めており、教育関係者への呼び掛け、特に社会科研究部会の先生方に案内を続けて、実績を積み上げていきたい。

② パネルとチラシの制作について

コロナの問題がある中で 1 年目の事業を実施したうえで、マッチングサイトやリアル見学の位置づけを再考すると共にチラシとパネルの作成の必要性について再検討した。

再検討の結果、以下の理由によりチラシとパネルの両者を作成する必要があるとの結論に至った。

②-1 チラシ作成の必要性と用途

- ・想定したチラシの内容は、本事業で開設したマッチングサイトを PR するもので、見学を受入れる工場が立地する地域の教育委員会、学校へサイト制作の案内として使用する。
- ・近年では見学来訪者の 80%以上が小中学生の訪問となっており、先生に知っていただくことが必要かつ効果的で、チラシはそのために作成する。
- ・コロナ禍が続く中で、教育関係者からバーチャル見学についての問い合わせも起こっている。バーチャル工場見学の開催と手順等についてもお知らせするチラシとする。
- ・前年度制作サイトの案内と PR 活動については、2021 年度の主要事業として取り組む。

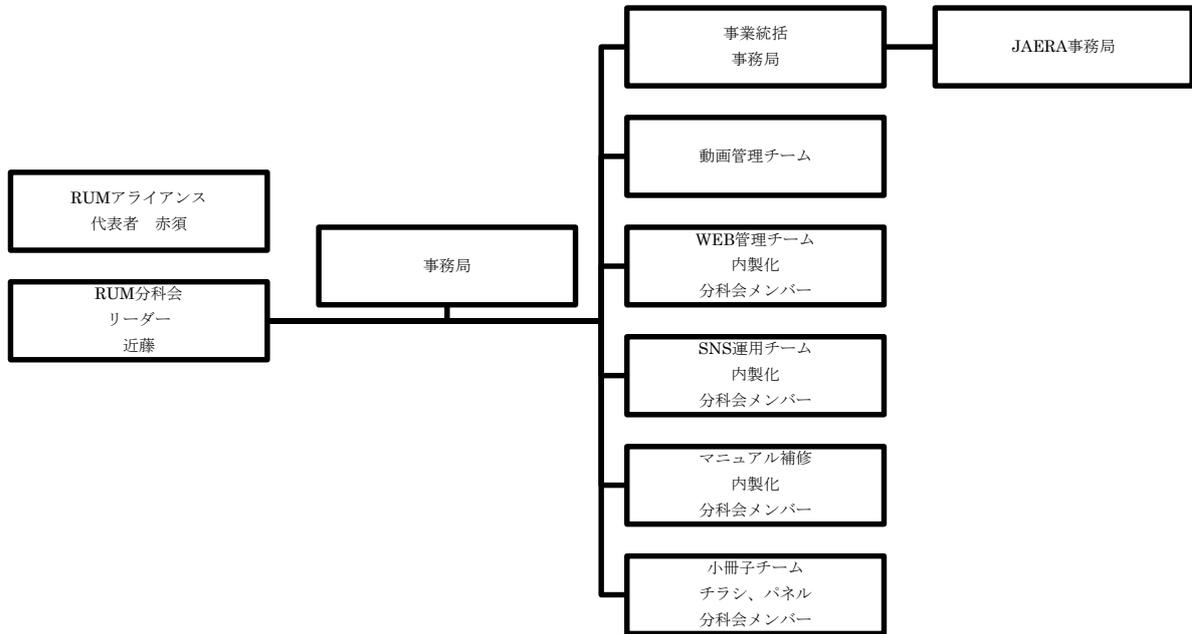
②-2 パネルの制作と用途について

- ・想定したパネルの必要場面は、工場見学受入の時の最初の説明場面で、説明内容を見える化した図や統計で来訪者の理解を得ることができるし、効果的な説明ができる。
- ・パネルの内容は、1 枚は、小冊子との関連を考慮し、車検制度のある国とない国の割合と問題点を比較する。もう 1 枚は、日本のメーカーにより製造される乗用車の割合と使用後について考えていただく内容にする。

3.2. 事業の実施体制

2021年度の事業実施体制は、現在の分科会を中心とする体制を維持する。

図 3-1 2021年度の事業実施体制図



3.3. 実施スケジュール

(1) 2021年度 工程表

2021年度の事業は、初年度の作成物を維持しつつ、修正を加え、主としてサイトの活性化のための事業に以下の計画で取組む。

図 3-2 2021年度工程表

| | 作業項目 | 計画 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 備考 |
|-----|-------------------------------|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|---------------|
| ① | 自動車リサイクル周知分科会 | 計画 | | | | | | | | | | | | | 年5回、うち2回は集合会議 |
| ②-1 | 見学受入企業開拓(呼びかけ) | 計画 | | | | | | | | | | | | | 年間 |
| ②-2 | 教育関係者への呼びかけ(チラシ作成、送付) | 計画 | | | | | | | | | | | | | チラシ使用 |
| ③ | 継続Web業務(サイト、Facebook、YouTube) | 計画 | | | | | | | | | | | | | |
| ④ | 月次見学受入実績集計 | 計画 | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤-1 | 顧客満足度を高める取組、見学受入の対応 | 計画 | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤-2 | パネルの作成、手引きの修正 | 計画 | | | | | | | | | | | | | 外注 |
| ⑤-3 | 小冊子の増刷と配布 | 計画 | | | | | | | | | | | | | |
| ⑥ | 受入担当者研修、情報交換会 | 計画 | | | | | | | | | | | | | |
| ⑦ | その他 | 計画 | | | | | | | | | | | | | 報告書等 |

(2) 3か年計画

図 3-3 3か年計画

| 作業項目 | 計画/実績 | 2020年度 | | | | | | | | | | | | 2021年度 | | 2022年度 | | |
|---------------------|-------|--------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|--------|-------|----------|----|--|
| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | |
| ① 自動車リサイクル周知分科会 | 計画 | | | | | | | | | | | | | | 年間5回 | | | |
| | 実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② -1 工場見学受入調査とマップ作成 | 計画 | | | | | | | | | | | | | | マップ作成 | | | |
| | 実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② -2 受け入れ企業のマニュアル作成 | 計画 | | | | | | | | | | | | | | | 要印刷 | | |
| | 実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ -1 WEB関係(動画作成) | 計画 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ -2 WEB関係(サイト作成) | 計画 | | | | | | | | | | | | | | | 企業数により修正 | | |
| | 実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ -3 WEB関係(SNSとの連携) | 計画 | | | | | | | | | | | | | | 情報追加 | | | |
| | 実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ④ 来訪者小冊子作成 | 計画 | | | | | | | | | | | | | | | 増刷 | | |
| | 実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤ 各月見学受入実績集計と回収 | 計画 | | | | | | | | | | | | | | 月次報告 | | | |
| | 実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑥ 受入担当スキルUP研修 | 計画 | | | | | | | | | | | | | | 7月 | 11月 | | |
| | 実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑦ その他(報告書等) | 計画 | | | | | | | | | | | | | | 中間 | 期末 | | |
| | 実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| チラシの作成、教育委員会案内 | 計画 | | | | | | | | | | | | | | 4月 | | | |
| | 実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| パネルの作成 | 計画 | | | | | | | | | | | | | | | 9月 | | |
| | 実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

※2020年度の計画は提案時の計画

3.4. 資金計画

提案時に申請した 2021 年度の費用見積は、事業費で合計 2,764,964 円 になっている。この金額は RUM の手持ち資金で十分カバーできる金額である。

なお、2021 年度の取組みに要する費用は、当初提案の内容に沿うことを原則にして、変更があっても事業費は上記の金額を上限とする。

以上

2020 年 10 月

自動車リサイクル事業を営む企業の
代表取締役 様

NPO 法人 RUM アライアンス

代表理事・赤須洋一郎

(カーレポ(株)代表取締役)

協力：一般社団法人日本自動車リサイクル機構

自動車リサイクル周知のための 工場見学のお受入れに関するアンケートのお願い

NPO 法人 RUM アライアンス (略称：RUM) は、この度一般社団法人日本自動車リサイクル機構 (略称：JAERA) 様のご協力をいただき標記のアンケートを実施することになりました。

この調査は自動車リサイクル業界で工場見学を受入れているか否かの実態を調べるもので、公益財団法人自動車リサイクル高度化財団のご支援を戴き実施するものです。

RUM は同財団の 2020 年公募に「**自動車リサイクルの現場を活用した周知活動**」を提案し、取組としてご採択を戴きました。

つきましては、自動車リサイクルの現場、すなわち使用済自動車の入庫から、利用可能な部品の取り外し、重機による解体工程などを経て、都市鉱山からの資源循環の工程を見学していただく機会を設けることが必要になります。すなわち、**工場見学の受入れ**です。

そこで、自動車リサイクル業界で工場見学受入の実態を知るため、添付のアンケートを企画しました。この FAX でのお願いと共に JAERA 様のメールマガジンで調査協力の呼びかけがされます。ご回答は FAX もしくは WEB でお願いします。QR コードを付けるのでスマホでの回答も OK です。(アドレス等は調査用紙をご覧ください)

自動車リサイクル事業を広く周知する取組として是非ご協力をお願い致します。

なお、最近の RUM 会員企業の工場見学受入実績は別表の通りです。また、本件に対するお問い合わせは RUM 事務局 (鳥本) までお願いします。

○RUM 事務局メール

(別表) 最近の工場見学の来訪者数 (RUM 会員企業)

| | |
|---------------|---------------------------------------|
| 2019 年 (9 社計) | 115 団体、3,446 人 (内・小中学生 34 団体、2,746 人) |
| 2018 年 (6 社計) | 70 団体、3,703 人 (内・小中学生 37 団体、3,055 人) |

*RUM アライアンスは自動車リサイクルの事業者により 2005 年に設立された NPO 法人です。

RUM の詳細はホームページ <https://www.rum-alliance.com/> をご覧ください。

★FAX でのご回答は、XXXXXXXXXX (宛名 RUM アライアンスにご返送ください。)

工場見学の受け入れに関するアンケート(201001)

NPO 法人 RUM アライアンスから自動車リサイクル工場見学の受け入れに関するアンケートのお願いです。
(出来ましたら、FAX あるいは WEB でご回送下さい。)

ご回答

○貴社名: _____

○ご担当者部署名、ご氏名: _____

○ご連絡電話番号 : _____

○メールアドレス : _____

●問 1. これまでに工場見学を受け入れたことはありますか。

ある ない

●問 2. 工場見学の受け入れが可能ですか。(現状の with コロナでのご回答をお願いします。)

可能 条件が整えば可能 不可能(→ 問 7 と問 8 をご回答ください)

●問 3. 問 2 で「条件が整えば可能」とご回答いただいた方への質問です。

どのような条件で受け入れ可能か。または現在受け入れていない理由を教えてください。

.
. .
. .

●問 4. 一回の見学での受入可能人数について教えてください。

10 人まで 20 人まで 30 人まで 50 人まで 100 人まで

その他(記述式)

(調査用紙 2 枚目に続く→)

●問 5. 受入対象者について(複数回答可)

- 学生、学校関係者(小・中学生、PTA 関係者を含む) 企業、各種の団体
- 一般の方(消費者、地域の関係者など) 不問
- その他(記述式)
-

●問 6. 問 2 で「可能」、「条件を整えば可能」とご回答いただいた方への質問です。

高度化財団の支援で開設予定の「自動車リサイクル工場見学紹介サイト」(注1)で受入企業として貴社を紹介させていただくことは可能ですか。(所在地、ホームページ、問合せ窓口程度の情報紹介です。)

- 可能 条件を整えば可能 不可能

↓

*それはどのような条件でしょうか。

○注1:上記の文章中の「自動車リサイクル工場見学紹介サイト」について。

このサイトは、工場見学を希望する方と受け入れ可能な企業とのマッチングのために設けるサイトで、(公益財団法人)自動車リサイクル高度化財団の支援で制作されます。

●問 7. 問 2 で工場見学の受け入れは「不可能」とお答えの方への質問です。

- 現在は受け入れできないが将来はできるかもしれない。(そのお考えを下段に)
(記述式)
-

- 今後とも受け入れは考えられない

●問 8. そのほか本調査に対するご質問、ご意見等がございましたら以下にご記入ください。

・
・

添付資料 2

メール件名 ⇨ ※【依頼】工場見学受け入れに関するアンケート回答のお願い

日本自動車リサイクル機構
会員の皆様

お世話になっております。

NPO 法人 RUM アライアンスでは、公益財団法人自動車リサイクル高度化財団からの助成を受け、今年度「自動車リサイクルの現場を活用した周知活動」に関する事業を推進しています。

具体的には、自動車リサイクルの現場を見学したいという学生、学校関係者、企業、各種の団体や一般の方などのニーズに応えるため、受け入れ可能な自動車リサイクル業者と工場見学を希望する方をマッチングする WEB サイトを立ち上げるというものです。

WEB サイトを立ち上げるにあたり、日本自動車リサイクル機構会員に対する工場見学の受け入れの可否等に関するアンケートが実施されます。

下記 URL よりアンケートの回答が可能となっておりますので、会員の皆様におかれましては、是非、回答へのご協力をお願い申し上げます。

なお、一部の会員の皆様には、RUM アライアンスより FAX にてご案内が配信されます。ご回答は、FAX での回答、PC やスマートフォンによる WEB 回答が可能です。

RUM アライアンスアンケートページ：

以上、よろしくお願いいたします。

=====

一般社団法人日本自動車リサイクル機構

■メール
■TEL
■FAX

=====

2020 年 11 月

自動車リサイクル事業を営む企業の
代表取締役 様

NPO 法人 RUM アライアンス

代表理事・赤須洋一郎

協力：一般社団法人日本自動車リサイクル機構

工場見学のお受入れに関する(再調査)のお願い

10 月に続き再度のお願いです。

NPO 法人 RUM アライアンス (略称：RUM) は、一般社団法人日本自動車リサイクル機構 (略称：JAERA) 様のご協力をいただき先月標記のアンケートを実施しましたが、未だ回答を頂いていない企業様に再度の調査をお願いすることになりました。

先般もお伝えしましたが、この調査は自動車リサイクル業界で工場見学を受入れているか否かの実態を調べるもので、公益財団法人自動車リサイクル高度化財団のご支援を戴き実施するものです。

RUM は同財団の 2020 年公募に「**自動車リサイクルの現場を活用した周知活動**」を提案し、取組としてご採択を戴きました。

この提案の骨子は、自動車リサイクルの現場、すなわち使用済自動車の入庫から、利用可能な部品の取り外し、重機による解体工程などを経て、都市鉱山からの資源循環の工程を見学していただく機会を設けることです。すなわち、**工場見学の受入れです。**

そこで、自動車リサイクル業界での工場見学受入の実態を知るため、添付のアンケートを企画しました。この FAX でのお願いと共に、JAERA 様からは先月メールマガジンで調査協力の呼びかけがされています。ご回答は FAX あるいは WEB でお願いします。QR コードを付けるのでスマホでの回答も OK です。(今回は回答期限を 11 月 25 日とします。)

自動車リサイクル事業を広く周知するため何卒ご協力をお願い致します。

なお、最近の RUM 会員企業の工場見学受入実績は別表の通りです。また、本件に関するお問い合わせは RUM 事務局 (鳥本) までお願いします。

○RUM 事務局メール

(別表) 最近の工場見学の来訪者数 (RUM 会員企業)

| | |
|---------------|---------------------------------------|
| 2019 年 (9 社計) | 115 団体、3,446 人 (内・小中学生 34 団体、2,746 人) |
| 2018 年 (6 社計) | 70 団体、3,703 人 (内・小中学生 37 団体、3,055 人) |

*RUM アライアンスは自動車リサイクルの事業者により 2005 年に設立された NPO 法人です。

RUM の詳細はホームページ <https://www.rum-alliance.com/> をご覧ください。

2020.12. 1

日本自動車リサイクル機構
様

NPO 法人 RUM アライアンス事務局

アンケートの結果の報告

自動車リサイクル周知のための「工場見学のお受入れに関するアンケート」

1. 経緯

調査の実施：2020年10月13日（火）

- ・調査対象は JAERA 会員の内主要会員 101 社で FAX 一斉送信した。
- ・主要の選択基準は、年間処理台数、地域、会員活動での協力状況などを勘案。
- ・JAERA からは会員 420 社に対してメルマガで RUM からの FAX による調査に協力依頼文が出された。
- ・メルマガには WEB で回答する企業のために、RUM の HP に設けた回答受付窓口の URL を掲載していただいた。
- ・10 月末までの回答数は 32 社

第 2 回（再調査）：2020年11月11日（水）

- ・前回と同じ FAX 一斉送信により、前回の対象リストから回答社を除く 75 社に送信した。
- ・今回は JAERA からの協力依頼状は付けなかった。
- ・今回は回答締め切り日を 11 月 25 日と明示した。
- ・11 月末までの回答は 15 社

2. 調査結果

①回答数：2 回の調査で回答社数は 47 社となった。

②回答の分析

- ・工場見学を受け入れたことがあり、現在も受け入れている。：16 社
 - ・工場見学を受け入れたことがあるが、現在は中止している。：15 社
 - ・受入れ経験はなく、これからも受け入れない。：16 社
- *中止しているのはほとんどがコロナのため。

3. これからの展開

現在見学を受け入れている 16 社に新設の「自動車リサイクル工場見学紹介」サイトに会社情報を掲載していただき、サイトを活用していただくことを勧める。

以上

2020 年 11 月

会社名 役職名 氏名

NPO 法人 RUM アライアンス

代表理事・赤須洋一郎

協力：一般社団法人日本自動車リサイクル機構

アンケートご回答のお礼と
新設サイト「自動車リサイクル工場見学紹介」に御社情報掲載のお願い

先日は、一般社団法人日本自動車リサイクル機構（略称：JAERA）様のご協力をいただき工場見学のお受入れに関するアンケートをお願いしたところ、早速ご回答をいただきありがとうございました。お礼申し上げます。

ご回答を拝見しますと工場見学を受入れておられる由、是非続けていきたいものです。また、RUM アライアンス（以下、RUM）が自動車リサイクル高度化財団の支援により開設するサイト「自動車リサイクル工場見学紹介」について、ご協力を頂けるとのご返事ありがとうございます。

同サイトは現在準備中（非公開）のため入場はできませんが、この間に見学受入企業の情報を掲載する準備をしております。

つきましては、同サイトのイメージを把握していただくため、一部の画面を貼り付けて添付しご案内すると共に、同サイトに御社情報を掲載していただきたくお願いいたします。

情報掲載の様式を添付しますので、とりあえずその形式に従いご記入いただき、下記 RUM 事務局宛メール添付でご返送をお願いします。

なお、自動車リサイクル業界の工場見学受け入れは、今年度 4 月から 9 月は訪問する側のキャンセルと受入れ側の中止でほとんど実施されていませんが、10 月から再開の動きが具体化しております。RUM 関係では 1,500 名を超える受入れ実績になっています。

本件に対するお問い合わせは RUM 事務局（鳥本）までお願いします。
お礼と共にご案内いたします。

○RUM 事務局メール：

(別表) 最近の工場見学の来訪者数 (RUM 会員企業)

| | |
|---------------|---------------------------------------|
| 2019 年 (9 社計) | 115 団体、3,446 人 (内・小中学生 34 団体、2,746 人) |
| 2018 年 (6 社計) | 70 団体、3,703 人 (内・小中学生 37 団体、3,055 人) |

* RUM アライアンスは自動車リサイクルの事業者により 2005 年に設立された NPO 法人です。

RUM の詳細はホームページ <https://www.rum-alliance.com/> をご覧ください。

2020 年 11 月

株式会社 御中

NPO 法人 RUM アライアンス

代表理事・赤須洋一郎

協力：一般社団法人日本自動車リサイクル機構

工場見学のお受入れに関する アンケートご回答のお礼と新設サイトの紹介について

先日は、一般社団法人日本自動車リサイクル機構（略称：JAERA）様のご協力をいただき工場見学のお受入れに関するアンケートをお願いしたところ、早速ご回答をいただきありがとうございました。お礼申し上げます。

ご回答を拝見しますと、工場見学受入の経験はあるが、現状を勘案して中止しているとのこと、コロナ禍の下では厳しい現実がありますね。

つきましては、RUM アライアンス（以下、RUM）が自動車リサイクル高度化財団の支援により開設するサイト「**自動車リサイクル工場見学紹介**」をご案内し、今後御社のご紹介ができる日を待ちたく存じます。その日の参考に、御社情報の**掲載様式**をも添付しますので見学受入再開の折には是非ご一報をお願いします。

サイトは現在準備中のため非公開ですが、イメージを把握していただくため一部画像を貼り付けてお届けします。

なお、自動車リサイクル業界の工場見学受け入れは、今年度 4 月から 9 月は参加する側のキャンセルと受入れ側での中止でほとんど実施されていませんが、10 月から再開の動きが具体化しております。RUM 関係では 1,500 名の受入れ実績になっています。

これから御社にサイトを利用いただきたく重ねてお願いします。

自動車リサイクル事業を広く周知する取組として是非ご協力をお願い致します。

なお、本件に対するお問い合わせは RUM 事務局（鳥本）までお願いします。

○RUM 事務局メール：

(別表) 最近の工場見学の来訪者数 (RUM 会員企業)

| | |
|---------------|---------------------------------------|
| 2019 年 (9 社計) | 115 団体、3,446 人 (内・小中学生 34 団体、2,746 人) |
| 2018 年 (6 社計) | 70 団体、3,703 人 (内・小中学生 37 団体、3,055 人) |

*RUM アライアンスは自動車リサイクルの事業者により 2005 年に設立された NPO 法人です。

RUM の詳細はホームページ <https://www.rum-alliance.com/> をご覧ください。

2020 年 11 月

(社名)
(回答者 様)

NPO 法人 RUM アライアンス

代表理事・赤須洋一郎

協力：一般社団法人日本自動車リサイクル機構

アンケートご回答のお礼と 新設サイト「自動車リサイクル工場見学紹介」のご案内

先日は、一般社団法人日本自動車リサイクル機構（略称：JAERA）様のご協力をいただき工場見学のお受入れに関するアンケートをお願いしたところ、早速ご回答をいただきありがとうございました。お礼申し上げます。

ご回答を拝見しますと工場見学はこれまで受入れていない由、これからも受け入れないとのこと回答でした。コロナ禍の現状を勘案しますと、厳しい現実がありますね。

つきましては、RUM アライアンス（以下、RUM）が自動車リサイクル高度化財団の支援により開設する「自動車リサイクル工場見学紹介」サイトについて、ご紹介したいのですが、現在工事中です。立ち上がりましたら JAERA さんを通して改めて紹介します。それまでお待ちください。

なお、自動車リサイクル業界の工場見学受け入れは、今年度 4 月から 9 月は訪問する側のキャンセルと受入れ側の中止でほとんど実施されていませんが、10 月から再開の動きが具体化しております。RUM 関係では 1,500 名を超える受入れ実績になっています。

今後、自動車リサイクル事業を広く周知する活動としてご協力が可能な折には是非ともご連絡をお願いします。

本件に対するお問い合わせは RUM 事務局（鳥本）までお願いします。
お礼と共にご案内いたします。

○RUM 事務局メール：

(別表) 最近の工場見学の来訪者数 (RUM 会員企業)

| | |
|---------------|---------------------------------------|
| 2019 年 (9 社計) | 115 団体、3,446 人 (内・小中学生 34 団体、2,746 人) |
| 2018 年 (6 社計) | 70 団体、3,703 人 (内・小中学生 37 団体、3,055 人) |

*RUM アライアンスは自動車リサイクルの事業者により 2005 年に設立された NPO 法人です。

RUM の詳細はホームページ <https://www.rum-alliance.com/> をご覧ください。

2020 年 12 月

会社名

部署名 氏名

NPO 法人 RUM アライアンス

協力：一般社団法人日本自動車リサイクル機構

自動車リサイクル周知のための 新設サイト「自動車リサイクル工場見学紹介」一般公開のご案内

先般、一般社団法人日本自動車リサイクル機構（略称：JAERA）様のご協力をいただき工場見学の受入れに関するアンケートをお願いした RUM アライアンス（略称：RUM）です。早速、調査にご回答をいただきありがとうございました。

その折に、制作中とご案内した標記の「自動車リサイクル工場見学紹介」サイトが 12 月 15 日から一般公開の運びとなりました。このサイトは、自動車リサイクル高度化財団の支援により、自動車リサイクルの現場を通して自動車リサイクルの周知を目指すもので、同時に自動車リサイクル業界の存在と意義を知っていただく良い機会ともなります。

以下の別表の通りアンケートに回答を頂いた 47 社では、工場見学を受入れている会社は 16 社あり、この内 4 社のデータがすでに新設サイトに掲載され、私たち RUM の会員を含み、サイト開設時には 12 社 15 か所の工場がサイトのマップに掲載されております。これから 3 年後までにはマップ収録の受入企業を 100 社とする目標です。

◎サイトの URL は、<https://www.recycltour.com/>

つきましては、新設サイトの公開をお知らせするこの機会に、業界の各社にサイトのご利用をお勧めしたく、改めて情報掲載の「様式」を添付しご案内いたします。

われわれの自動車リサイクル事業を広く周知する活動として是非ご協力をお願いし、見学受入が未だの処では可能となった折には是非ともご連絡をお願いします。

なお、本件に対するお問い合わせは RUM 事務局（鳥本）までお願いします。

○RUM 事務局メール 

(別表) 工場見学受入れの現状 (JAERA 会員 101 社調査、回答 47 社)

| | |
|----------------------------|------|
| すでに見学を受け入れている | 16 社 |
| 受け入れていたが現在中止（主として新型コロナのため） | 15 社 |
| これまで受け入れたことがない | 16 社 |

*RUM アライアンスは自動車リサイクルの事業者により 2005 年に設立された NPO 法人です。

RUM の詳細はホームページ <https://www.rum-alliance.com/> をご覧ください。

「自動車リサイクル工場見学紹介サイト」受入れ企業情報フォーム

サイトの URL は、<https://www.recycletour.com/>

工場見学受入れ企業の紹介ページに掲載する御社の内容をご記入ください。また、サイトマップ内の紹介ページのように、写真も掲載します。可能であれば写真もお願いします。

| | |
|---|----------------------|
| 御社名 | |
| 所在地 | |
| 見学工場所在地(実際に見学者に来ていただく住所です。事務所と住所が違う場合にご記入ください。) | |
| 御社プロフィール (PR、注目の箇所、どのような見学ができるかなど) | * 150～200 字 (下記に記入例) |
| 最大受入れ人数 | |
| 受入れ時期(不定期な場合は「要相談」等ご記入ください。) | |
| ホームページ(可能であれば貴社のサイトにリンクさせます。) | |
| お問合せの部署、電話番号 | |
| 可能ならメールアドレス | |

【記載例】

* 工場見学では重機ニブラの活躍場面がお勧めです。迫力は、最強の恐竜「ティラノザウルス」が獲物に襲いかかる場面をイメージしてください。圧巻です。

自動車リサイクルの工場が、地下資源を掘り出す鉱山に対して地上資源の鉱山(都市鉱山)ということが理解いただけます。東京オリンピックのメダルは都市鉱山から産出されます。

リサイクルを通して、資源の枯渇と地球環境に貢献している工場です。(200 字以内)

* 当社の工場見学に来られる方は、小学生高学年の方が多く授業で日本の自動車産業について学ぶと共に、使用済みの自動車がどうなるのかを勉強します。

「百聞は一見に如かず」です。是非リサイクルの現場を見学・体験され、まだ使えるものには「もったいない」、資源として再び使うリサイクル「あとしまつ」で、資源の枯渇と地球環境について考える工場です。二つの日本語を世界の共通語にしよう。仕事が誇りです。

2020 年 12 月

社名

代表取締役 ○○○○様

NPO 法人 RUM アライアンス

協力：一般社団法人日本自動車リサイクル機構

自動車リサイクル周知のための 新設サイト「自動車リサイクル工場見学紹介」一般公開のご案内

先般、一般社団法人日本自動車リサイクル機構（略称：JAERA）様のご協力をいただき工場見学の受入れに関するアンケートをお願いした RUM アライアンス（略称：RUM）です。早速、調査にご回答をいただきありがとうございました。

その折に、制作中とご案内した標記の「自動車リサイクル工場見学紹介」サイトが 12 月 15 日から一般公開の運びとなりました。このサイトは、自動車リサイクル高度化財団の支援により、自動車リサイクルの現場を通して自動車リサイクルの周知を目指すもので、同時に自動車リサイクル業界の存在と意義を知っていただく良い機会ともなります。

以下の別表の通りアンケートに回答を頂いた 47 社では、工場見学を受入れている会社は 16 社あり、この内 4 社のデータがすでに新設サイトに掲載され、私たち RUM の会員を含み、サイト開設時には 12 社 15 か所の工場がサイトのマップに掲載されております。これから 3 年後までにはマップ収録の受入企業を 100 社とする目標です。

◎サイトの URL は、<https://www.recycletour.com/>

つきましては、新設サイトの公開をお知らせするこの機会に、業界の各社にサイトのご利用をお勧めしたく、改めて情報掲載の「様式」を添付しご案内いたします。

われわれの自動車リサイクル事業を広く周知する活動として是非ご協力をお願いし、見学受入が未だの処では可能となった折には是非ともご連絡をお願いします。

なお、本件に対するお問い合わせは RUM 事務局（鳥本）までお願いします。

○RUM 事務局メール： 

(別表) 工場見学受入れの現状 (JAERA 会員 101 社調査、回答 47 社)

| | |
|-----------------------------|------|
| すでに見学を受け入れている | 16 社 |
| 受け入れていたが現在中止 (主として新型コロナのため) | 15 社 |
| これまで受け入れたことがない | 16 社 |

*RUM アライアンスは自動車リサイクルの事業者により 2005 年に設立された NPO 法人です。

RUM の詳細はホームページ <https://www.rum-alliance.com/> をご覧ください。

自動車リサイクル工場見学

工場見学受入れの手引き



2020年12月
制作：
RUMアライアンス

目次

1部:工場見学受入れの意義(受入れお勧め編)

- ・工場見学受入れの背景と意義
- ・工場見学受入れサイトを勧める経緯

2部:安全第一の配慮(マニュアル編)

- ・見学の順路と内容、見学開始の直前に(感染症回避)
- ・自動車リサイクル工場の危険個所とその特徴
- ・担当者の教育

3部:見学を受け入れた企業からの反響(嬉しいお話)

- ・受入れて良かったこと、(反響の声、見学先に選ばれた理由)
- ・これからの展望、見学者の傾向、

1部:工場見学受入れの背景と意義

○リサイクル工場見学は体感を通して知ること、学ぶこと。

- 自動車リサイクル業の存在は未だに知られておらず、一般の方は自分の愛車の使用後には無関心。
- 自動車リサイクルの周知は、我々の仕事と事業の役割と存在の意義を知らせる活動になる。
- 地域一番のブランドづくりの具体的な活動になる。
- 見学後の感想は、「知らなかった、感動した、未来に役立つ仕事、など」
- 社員の採用試験を受けに来た高校生から「小学生の頃、見学に来ました。」といわれた。(実施して良かった一瞬！)

RUMアライアンス会員企業の工場見学受入れ

- 最近2年間の訪問者は下段の表のとおり。
- 10年前から受入れをスタートした会員は延べ20,804名を受入れている。
- 同社は現在年間約40組でその70%は小学生(特に5年生)

(別表) 最近の工場見学の来訪者数 (RUM会員企業)

| | |
|------------|---------------------------------|
| 2019年(9社計) | 115団体、3,446人(内・小中学生34団体、2,746人) |
| 2018年(6社計) | 70団体、3,703人(内・小中学生37団体、3,055人) |

工場見学受入れを勧める経緯

背景：

- ・現在小学高学年では日本の自動車産業を学んでいる。
- ・自動車のリサイクルについても学ぶ。(教科書により現場写真入り)
- ・工場見学を学習のカリキュラムに加える教育関係者が増加している。
- ・見学希望者と受入れ企業のマッチングサイトを設け、情報の交換によりスムーズな工場見学が実現できる。
- ・自動車リサイクル促進センターでは、2017年から小学生を対象に「クルマのリサイクル」作品コンクールとして標語とポスターを募集し、2018年には7,357件の応募があった。
- ・先進受入れ企業の経験を基に見学受入れ手引きをまとめた。

2部：安全第一の配慮

○感染症予防対策

- ・コロナ禍の推移によるが、一般的な配慮を続ける。

○自動車リサイクル工場の危険個所とその特徴を踏まえる。

- ・見学の順路と内容、見学開始の直前までに見て確認する。
- ・時には危険な場面があるエアバッグ、ニブラの箇所は事前に対策する。

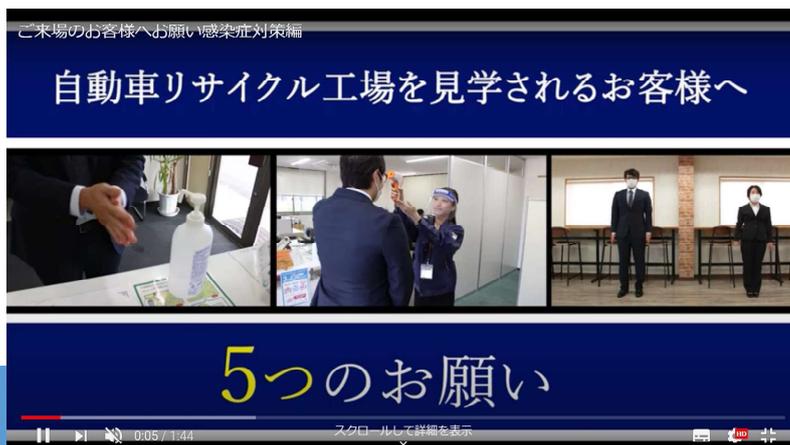
○担当者の教育

- ・定期的に社内の見学受入コースと受入れ体制を見直す。

見学開始の直前までに（感染症回避）

○コロナ禍を回避するための対応

- ・検温、手洗い、消毒、マスク、換気そしてソーシャルディスタンス。
- ・見学者側、受入側で事前に確認し、連絡先を決めておく。
- ・感染回避の動画視聴



見学の順路と内容（各社で順序が違っててもOK）

1グループ30名～40名で標準約1時間程度が目安。

- ①検査と使える部品の回収(タイヤ、ドアなど部品の回収)
- ②フロンガスの回収
- ③エアバッグの取り外し(作動処理＝安全な車種を準備しドアを開ける)
- ④液類(ガソリン、オイルなど)の回収
- ⑤部品取り外し、品質チェック、梱包)
- ⑥ニブラ解体 プレス作業 プレス置き場
- ⑦記念写真撮影
- ⑧質問タイム(出来るだけこの時間を設る)
- ⑨お見送り



設備・準備について

視点: あらかじめ受け入れるグループの規模に合わせて準備する。

①設備等

- ・駐車場、会議室、見学の道線、
- ・説明時にスピーカーが必要な場合も(ハンドマイクの拡声器では限界がある)

②小物

- ・ヘルメット、カメラ、など
- ・看板(ウエルカムボード)、1団体ずつ。
- ・雨対策。傘、テント、(急に降ってきたときの準備が必要)

③その他

- ・アフターフォローの企画、(記念写真、感想文の受付など)
- ・保険の検討、



配布物について

①見学日前と当日

- ・工場内地図(必要に応じて作成)
- ・会社パンフレット
- ・小冊子
- *それぞれ1人ずつに渡す。

②見学後に準備

- ・記念写真
- ・見学時のスポット写真など

当日見学受入れ対応

- ・案内担当と撮影担当 2人1組が望ましい。
- ・小中学生の場合見学箇所ごとにスポット写真を撮り、お渡しすると喜ばれる。
- ・集合写真は写真屋さんにデータを送り、当日か翌日に取りに行き、早ければ見学の翌日には写真を発送する。
(一人ひとりに写真を渡し、家庭で自動車リサイクルが話題になるようにする。)
- ・新規の顧客開拓になることも。

現場の準備（見えない苦労）

- ・解体しやすいようにエンジン廻り足回りのボルトを外しておく。
- ・重機解体時は飛散物よけの簡易フェンスの設置
- ・ウェルカムボード
- ・雨天時はテント、足場、傘など



見学を受入れて良かったこと

- 学校教育への協力、社会貢献ができています。
- 見学先として頼りにされている。無くてはならない会社に近づける。
- お礼の手紙をたくさんいただける。
- 楽しく学んで自動車リサイクルを知ってもらえる。
- 人前で話す練習、他部署や会社のことを更に知ることができる。
- 工場内が常にきれいになる。(知らぬ内に5S運動)
- 車の引取り先など外で見学参加者に声をかけられる。身近な存在。
- 写真(DVD)を通じて家族へ自動車リサイクルの啓蒙ができる。
- 社員が仕事にプライドを持つようになった。

反響の声

- リサイクルの大切さを学べて楽しかった。
- 車に興味をもった。もっと知りたいと思った。
- 将来働きます！
- 工場とリサイクルのことが一緒に学べてよかった。
- 授業で学んだことと関連性があるので良かった。
- (廃車や部品のお客様)「息子・娘が見学にきました。」
- 子供が写真(DVD)とパンフレットを大事に持っています。

見学先に選んだ理由(引率者の言葉)

- 行ったことのある方が大変良いと言っていたので。
- 授業で学ぶところと関連しているので良い。
- 動画の再視聴(DVD)で復習できるので良かった。
- 異動の度に後任に見学を薦めています。
- 何度も来ています。何度来ても楽しい。



問題点・課題

- 見学が増えると業務が止まり、支障が出る場合がある。
- 学生で中高生は見学態度が良くないので事前に先生にお願いする。
- 危険な場面がある。エアバッグ、ニブラの箇所。事前に対策する。
- 対応の人手が必要になる。
- 見学していただく際に使う(分解する)車の準備などが大変。
- 次の年度の予約は、次年度に先生同士の引き継ぎがうまく行っていない場合があるので、年度が変わったら確認が必要。
- 対応とコストのバランスが課題になる。

これからの展望

- ・年間の受け入れ人数は、年々増やすように心がける。
- ・プラスチック、ガラスの破碎もコースに入れていきたい。
- ・廃車や採用でどのような良い影響があるか楽しみを継続したい。
- ・一般買取台数が向上するように、見学の影響で10年先、20年先の顧客になっていただけるか？



見学者の傾向

先進企業からの伝言

- ・県内の小中学校の先生の研修の一環で見学に来られ、それから増えた。
- ・5月、10月、11月が特に多い。
- ・遠足の訪問先の1つとしての利用も多い。
- ・放課後デイサービスの方の見学も多い。(見学時の撮影はしない。)
- ・地区の子供会、中学、高校、婦人会、老人会、養護学校の方も来られる。
- ・繁忙期には見学者の受入れを制限している。

皆様のご協力をお願いいたします。

自動車リサイクルの現場には、
自動車リサイクル業界の存在を知っていただくと共に、
仕事の意義などを知っていただく材料がいっぱいあります。

しかし、業界で働く私たち自身が一番慣れっこになり、発見できないの
かもしれません。

初心を重んじて、協力して、サーキュラーエコノミー(CE)の環のわが国
静脈産業を国内外に周知しましょう。

新型コロナウイルス感染症 対策ガイドライン

2020年12月作成

NPO 法人 RUM アライアンス

本資料は RUM アライアンスが、会員企業で制作された資料を基に他の法人でも使える内容に一部変更を加えたものです。

自社の規模（組織）、事業範囲、社員の従業員の実情などを勘案して、自社用に役立つものに作成してください。お役立ていただければ幸いです。 事務局

目 次

| | |
|--|-----------|
| 第1章 本ガイドラインの目的・位置付けおよび用語の定義 | 2 |
| (1)目的..... | 2 |
| (2)本ガイドラインの位置付け..... | 2 |
| (3)用語の定義..... | 2 |
| 第2章 基本方針 | 3 |
| 第3章 コロナウイルス感染症の概要 | 4 |
| (1)コロナウイルス感染症の感染症状..... | 4 |
| (2)感染経路..... | 5 |
| 第4章 予防・治療について | 6 |
| (1)一般的予防法・感染しないための注意事項..... | 6 |
| (2)清掃・消毒体制・本部および事業所の防疫資材調達..... | 7 |
| (3)勤務場所における感染者および感染の疑いのある者のトレースと隔離の方法..... | 8 |
| 第5章 社内体制 | 10 |
| (1)フェーズの設定と対処方針..... | 10 |
| (2)社内組織及び体制..... | 11 |
| (3)設置場所..... | 11 |
| (4)設置基準..... | 11 |
| (5)対策本部の構成と役割及び運営方法..... | 11 |
| (6)新型感染症対策本部 本部長・副部長・各部の役割一覧..... | 12 |
| (7)感染対応行動等の基準..... | 13 |
| (8)感染症発生時における海外出張者・駐在者に対する対応方針..... | 14 |
| 第6章 本部および拠点・事業所のアクションプラン | 15 |
| (1)業務継続の為の基本的枠組みと各フェーズにおける継続業務..... | 15 |
| (2)業務継続に関する確認事項..... | 15 |
| (3)継続業務クロストレーニング訓練..... | 15 |
| (4)アクションプラン..... | 15 |
| 第7章 教育・訓練 | 16 |
| (1)感染予防に関する社内教育..... | 16 |
| (2)感染発生を想定した初動訓練..... | 16 |
| (3)業務継続に係る訓練..... | 16 |
| (4)教育・訓練の実施報告..... | 16 |

第1章 本ガイドラインの目的・位置付けおよび用語の定義

(1) 目的

本ガイドラインの目的は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が発生し、有効かつ確実なワクチン・薬剤が十分確保できない状況を前提に、感染症の社内への侵入・拡大を防止し、従業員等及びその家族ならびにお客さまを感染から守るとともに、感染が発生した場合において優先業務の継続を図ることとする。

(2) 本ガイドラインの位置付け

危機管理の一つとして、感染症に対して会社としてどのように備え、対処するかを規定する。

(3) 用語の定義

| 用語 | 定義 |
|--------------|--|
| 新型コロナウイルス感染症 | 新型コロナウイルスによる感染症で、発熱、咳、肺炎などの症状を引き起こすものをいう。コロナウイルスは、かぜのコロナウイルス（4種類）、中東呼吸器症候群（MERS）、重症急性呼吸器症候群（SARS）が知られていたが、2019年12月には中国武漢市で新型コロナウイルスによる感染症が報告された。 |
| 従業員等 | 正社員及び嘱託、契約、派遣社員を含め、当社に勤務する者すべてを言う。 |
| 関係先 | 当社の取引先など業務等に関係する全ての企業、団体、関係者などを言う。 |

第2章 基本方針

新型コロナウイルス感染症に対する実効性のある対応策を先行的、計画的に実施し、感染を防止するとともに、感染が発生した場合には、状況に応じて経営資源を集中投入する等、柔軟な対応により優先業務の継続を図るため、以下を基本方針とする。

■ 社員の安全

従業員等及びその家族ならびに近隣社会、関係先、お客さまの人命保護を最優先とする。

■ 感染拡大の防止

予防対策を整え、防疫資材等を確保し、当社全体及び社会的責任の観点から関係先およびお客様他への感染防止に努める。また、従業員等に感染者が発生した場合は、官公庁の指示に従いながら情報を社内外に開示することにより感染拡大の防止を図る。

■ 事業の継続

法令等及び行政の指導を遵守しつつ、業務継続に必要な体制を構築して、優先業務の継続に努める。

第3章 コロナウイルス感染症の概要

(1) コロナウイルス感染症の感染症状

コロナウイルス感染症の症状は以下のとおりである。

【コロナウイルス感染症の症状】

| ウイルス名 | HCoV-229E, HCoV-OC43, HCoV-NL63, HCoV-HKU1 | SARS-CoV | MERS-CoV | SARS-CoV-2 |
|-----------|---|---------------------------------------|---|---|
| 感染症名 | 風邪 | SARS (重症急性呼吸器症候群) | MERS (中東呼吸器症候群) | 新型コロナウイルス (COVID-19) |
| 発生年 | 毎年 | 2002年～ 2003年 (終息) | 2012年～現在 | 2019年～現在 |
| 発生地域 | 世界中で人類に蔓延している | 中国広東省 | アラビア半島とその周辺地域、全症例の80%以上はサウジアラビア。中東以外の国で輸入例。 | 中国武漢市を中心に、中国国内各地、日本を含む世界各国に感染が拡大。 |
| 宿主動物 | ヒト | キクガラシコウモリ (中国南部に棲息) | ヒトコブラクダ (中東、アフリカに棲息) | コウモリか |
| 死亡者数/感染者数 | 不明/70億 | 774/8,098 | 858/2,494 (2019/10/30時点) | 206万/9,620万 (2021/1/20時点) |
| 感染者の年齢 | 多くは6歳以下、全年齢に感染する | 中央値 40歳 (範囲 0-100歳) ※子供にはほとんど感染しない | 中央値 52歳 (範囲 1-109歳) ※子供にはほとんど感染しない | 日本国内では20代～50代が多い (範囲は全年齢) |
| 主な症状 | 鼻炎、上気道炎、下痢 | 高熱、肺炎、下痢 | 高熱、肺炎、腎炎、下痢 | 高熱、咳、倦怠感、呼吸困難、肺炎 (無症状感染者あり) |
| 重傷者の特徴 | 通常は重症化しない | 糖尿病等の慢性疾患、高齢者 | 糖尿病等の慢性疾患、高齢者、入院患者 | 糖尿病等の慢性疾患、肥満、高齢者 (妊婦、喫煙歴者も注意) |
| 感染経路 | 飛沫、接触 | 飛沫、接触 | 飛沫、接触 | 飛沫、接触 |
| ヒト→ヒト感染 | 1人→多数 | 1人から1人以下。スーパープレッダーにより多数へ感染拡大がみられた。 | 1人から1人以下。スーパープレッダーにより多数へ感染拡大がみられた。 | 基本的に1人から1人以下。ただしクラスターなどで1人から多数への感染拡大あり。 |
| 潜伏期間 | 2-4日 (HCoV-229E) | 2-10日 | 2-14日 | 1-12.5日 (多くは5-6日) |
| 感染症法 | 指定なし | 二類感染症 | 二類感染症 | 二類感染症相当 |

(出所) 国立感染症研究所資料、各種報道を基に作成

(2) 感染経路

コロナウイルスのヒト-ヒト間の感染経路は、飛沫感染と接触感染と推測されている。ウイルスは粘膜・結膜などを通じて生体内に入り、細胞の中でのみ増殖することができる。

| |
|---|
| ① 飛沫感染 |
| 感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つば など）と一緒にウイルスが放出され、他者がそのウイルスを口や鼻から吸い込んで感染する。 ➤ 主な感染場所：劇場、満員電車などの人が多く集まる場所 |
| ② 接触感染 |
| 感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスが付く。他者がその物に触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触って粘膜から感染する。 ➤ 主な感染場所：電車やバスのつり革、ドアノブ、スイッチなど |

第4章 予防・治療について

(1) 一般的予防法・感染しないための注意事項

| |
|---|
| ① 個人としての対策 |
| <ul style="list-style-type: none">● 人の大勢集まる場所（繁華街、観光地等）への外出は、できる限り控える。● 日常生活（買い物等）においても、出来る限り混雑する時間帯を避け、十分な対策が行われている施設を利用する。● 不要不急の出張・移動を自粛する。やむを得ず移動する場合は、出来る限り自動車で移動する。公共交通機関は極力利用しない。● 当面の間、国外への出張・移動は自粛する。● 外出後や食事前は、石鹸を使用した手洗いとうがいを徹底する。石鹸や水が利用できない場合は、アルコール消毒液等を使用し手指消毒する。● 原則、マスクを着用する。特に呼吸器系疾患を有している場合、もしくは咳・くしゃみ・のどの痛み等の症状がある場合は必須とする。● 外出後や食事前は石鹸を使用した手洗いを徹底する。石鹸や水が利用できない場合は、アルコール消毒液を使用する。● 公共交通機関を利用する場合は極力マスクを着用する。また、特に呼吸器系疾患を有している場合、もしくは咳・くしゃみ・のどの痛み等の症状がある場合はマスクを着用する。● 室内の換気を頻繁に行う。● 十分な睡眠と栄養バランスのとれた食事を摂る。● 体調不良とみられる人との接触を避ける。● 【特に海外】 動物（生死を問わず）や動物のいる環境との直接的な接触を避ける。● 【特に海外】 糞で汚染されている可能性があるものの表面に触れない。● 【特に海外】 生ものや調理不十分な肉等の摂取を避け、十分に加熱調理する。 |
| ② 企業・事業所としての対策 |
| <ul style="list-style-type: none">● 従業員等に対し、①の予防対策を周知・徹底する。● オフィス出入り口での消毒液設置、ドアノブやエレベーターボタンの定期消毒など、飛沫・接触感染予防策を実施する。● 業務状況に応じて、在宅勤務、時差出勤などを推進し、公共交通機関での通勤等による感染リスクを低減させる。● 多くの人が集まる会議・イベントは延期・中止を検討する。● 体調不良者の状況をモニタリングするよう、各管理者に指示する。● 接客・営業等、不特定多数と接する機会の多い職種については、マスク着用、手指消毒等の予防対策をさらに徹底する。 |

(2) 清掃・消毒体制・本部および事業所の防疫資材調達

| ① 清掃・消毒体制 | |
|--|--|
| <p>清掃・消毒を行う際は、以下の点に留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 手指がよく触れる場所を清潔に保つ。手など皮膚の消毒を行う場合には、消毒用エタノールを、物の表面の消毒には次亜塩素酸ナトリウムを使用する。(塩素系漂白剤等も有効) ● 消毒剤の噴霧は実施しないこと消毒が不完全となったり、ウイルスが舞い上がる危険性があるため。基本は消毒液を浸した拭布によるふき取りを行う。 ● 消毒作業を行う従業員は、消毒用マスク(不織布マスク)、消毒用ゴム手袋、(可能であればゴーグルを装備する。マスクや拭布は作業後、蓋付きゴミ箱やビニール袋に捨てる。(ゴム手袋やゴーグルは、適切な処置のもと一定期間の再利用は可) ● ゴミ回収業者に委託する廃棄される汚染ゴミ等の集積、回収は、専用の回収容器を用い、営業終了後の清掃・消毒にあわせ実施する。 | |

[消毒の対象とポイント(東京都)]

| 消毒薬 | 場 所 | | 対 象 | 方 法 |
|----------------|-------------|------------|---|---|
| 次亜塩素酸 ナトリウム | 家庭 | 居間 食事部屋 | ドアノブ、窓の取手、照明のスイッチ、 テーブル、椅子、電話機、パソコンのキ ーボード等 | ペーパータオル等に十分 に薬液を含ませて拭き、 自然乾燥させる。 |
| | | 浴室 | 水道の蛇口、ドアノブ、窓の取手、照明 スイッチ等 | |
| | | トイレ | 流水レバー、便器のフタ等 | |
| 消毒用 エタノール | 職場・ 集合住宅 | 共有部分 | エレベーターやオートロック、コピー機 等のボタン、建物出入口のドアノブやハ ンドル、共有のトイレや給水場所の蛇 口、電話機等 | 濡れている場合には水分 をふき取った後、ペーパ ータオル等に十分に薬液 を含ませて拭く。 |

出典:東京都感染症情報センター「新型コロナウイルス感染症に関する清掃・消毒について」(2020年2月4日)<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/assets/diseases/respiratory/ncov/disin.pdf>

② 本部および事業所の防疫資材調達

本社および各事業所の防疫資材を調達する

- 手洗い、うがい用
 - 手洗い用の液体石鹸を設置
 - ペーパータオルを設置
- マスク
 - マスクの取扱いに際し、説明書を準備する等事前に教育を行うことが求められる。具体的には正確な着用法と捨てる場所、捨て方の注意について注意
 - マスクは咳エチケットとして着用し飛沫を飛ばさないという面での効果はあることが認められている。また、混み合った場所、特に屋内や乗り物など換気が不十分な場所での予防効果や、ウイルスが付着した手指で口や鼻に接触するのを防ぐ効果がある。
- ゴーグル、フェイスシールド
 - 一般従業員用としては必要ないが、感染者に接触する可能性がある従業員については確保
- 手袋
 - ゴーグル、フェイスシールド同様に、感染者に接触する可能性がある従業員に必要な枚数のゴム製の使い捨て手袋を確保
 - 手袋を着用する目的は、もっぱら自らの手を汚さないようにするためであるが、同時にウイルスが付着した手袋で鼻や口を触ることをしないよう留意が必要
 - 天然ゴムにふくまれるラテックス成分が稀にアレルギー反応を引き起こすことがあるので、使用者には同意を得ることが必要
- 入場時の手指の消毒
 - お客様用入り口、従業員通用口、業者用入り口等に、アルコール消毒液または除菌液を設置

(3) 勤務場所における感染者および感染の疑いのある者のトレースと隔離の方法

勤務場所において感染疑い者が発生した場合は、以下によりトレースと隔離を行う。

- 厚生労働省の公表する基準に従い、該当者に感染疑いがあるか判断する。新型コロナウイルスの場合、保健所への相談・受診の目安は以下の通り。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">(1) 風邪の症状や 37.5℃以上もしくは平熱よりも 1℃以上高い発熱が 4 日以上続いている場合 (解熱剤を飲み続けなければならないときを含む)(2) もしくは、強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)がある場合 |
|--|

※上記に該当しない場合でも、感染地域への渡航歴、感染疑い者との濃厚接触歴、自覚症状などから、感染疑いとみなすことができる。

- 感染疑いがあると判断した場合、感染疑い者と付き添い者にただちにマスクを着用させ、他の従業員から隔離する。診療所がある勤務場所の場合、診療所で応急の診断も行う。
- 速やかに、感染疑い者が発生した旨を近隣の保健所に連絡する（新型コロナウイルスの場合、保健所に「帰国者・接触者センター」が設置されている）。
- 保健所の指示に従って、医療機関を受診する（新型コロナウイルスの場合、保健所から案内された「帰国者・接触者外来」を受診する）。

- 対策本部は受診・搬送状況を逐次把握する。あわせて家族に連絡し、家族の健康状態を確認する。
- 勤務場所では、一旦従業員等の移動を禁止するとともに、濃厚接触者をリストアップし直ちに出勤を停止する。

※「濃厚接触」の定義（2020年2月13日時点の厚労省の定義による）

- ・ 新型コロナウイルス感染症が疑われる者と同居あるいは長時間の接触（車内、航空機内等を含む）があった者
- ・ 適切な感染防護無しに新型コロナウイルス感染症が疑われる患者を診察、看護若しくは介護していた者
- ・ 新型コロナウイルス感染症が疑われる者の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
- ・ その他：手で触れること又は対面で会話することが可能な距離（目安として2メートル）で、必要な感染予防策なしで、患者と接触があった者（患者の症状やマスクの使用状況などから患者の感染性を総合的に判断する）

- 当日の該当者の行動を記録するとともに、接触部位をアルコールで消毒する。
- 発症日に遡って該当者の行動を確認し、特に疑いが強い感染源が判明した場合は対策本部に報告、2次感染が疑われる者については、本人に通知し健康状態をモニターする。

第5章 社内体制

(1) フェーズの設定と対処方針

当社は新型コロナウイルス感染症拡大の過程を以下のフェーズに区分し、感染防止、感染者対処および業務継続に係る計画等の発動のトリガーとする（以下は区分の一例）。

| フェーズ区分*1 | フェーズの説明 | 対処方針 |
|----------|------------------------------------|---|
| フェーズ① | 予防段階： ヒト-ヒト感染未発生 (未発生期) | 新型コロナウイルス感染症の感染予防のための体制作りを行うとともに、大掛かりな準備が必要となる業務継続策について、机上でできる整備を推進する。 |
| フェーズ② | 海外におけるヒト-ヒト感染の発生 (海外発生期) | 初動対応チームを立ち上げ、感染予防対策を強化するとともに業務継続のためのインフラ整備を推進する。国内及び非感染国拠点における業務は通常体制で行う。同時に拠点本部を立ち上げ、感染予防対策の強化及び治療対策の準備を推進する。 |
| フェーズ③ | 国内におけるヒト-ヒト感染の発生 (国内発生早期～国内感染期) | 感染予防・拡大防止策の強化・徹底を図るとともに、業務継続体制へ全面的に移行する。感染予防策の強化と的確な感染者対応により、感染の抑止・拡大防止に努めるとともに、最重要業務の継続を確保する。状況により優先度の低い一部の業務については停止を検討する。 |

*1 フェーズ②、及び③への移行は、WHO（世界保健機構）、CDC（米疾病管理・予防センター）または国内当局による感染発生の公式発表があった時点とする。

(2) 社内組織及び体制

WHO によるヒト-ヒト感染の発表があった段階で、社内に新型コロナウイルス対策本部を立ち上げる。

国内外事業所においても、対策本部と連絡をとることができる体制を整え、事業所単位の対策チームリーダー、サブ・リーダーを設置する。

【感染症対策本部組織】

- ・ 本部長 : ○○○○○ + (中央安全衛生委員会)
- ・ 副本部長 : ○○○○○
- ・ 部門管理者 : ○○○○○
○○○○○
○○○○○
* 部門の数に合わせて管理者を設ける。
- ・ 事務局 : ○○○○○
* 1 名以上

(3) 設置場所

各社の組織に合わせて

| 本部名称 | 設置場所 | 連絡先 |
|---------|------|-----|
| ○○○○○本部 | 総務課 | |

(4) 設置基準

- ・ 感染症対策本部は、フェーズ②で立ち上げられるものとする。
- ・ 各事業所における新型コロナウイルス感染症対策チームは、海外事業所においてはフェーズ②で、国内事業所においてはフェーズ③で立ち上げられる。

(5) 対策本部の構成と役割及び運営方法

- ・ 感染症対策本部・各事業所対策チームの構成
 - ▶ 新型コロナウイルス対策本部の構成は、時差のある海外拠点への対応等を考慮し、フェーズの進行に応じて 2 チームによるシフト勤務の実施を検討する。

● 新型コロナウイルス対策本部・各事業所対策チームの役割

感染症対策本部、各事業所対策チームは、以下を目的として活動する。

- (1)お客様、従業員等およびその家族の安否確認と安全確保
- (2)当社資産の保全
- (3)業務の早期復旧ないし業務の継続

また、以下に掲げる事務をつかさどる。

- ・ 当該感染症に対する対策の立案、実施、推進
- ・ 当該感染症に関する各部門の所管事項および施策の総合調整
- ・ 対策本部長の権限に属する事項

● 感染症対策本部・各事業所対策チームの運営方法

- 本部施設を共有することにより対策本部要員が同時に感染することを防ぐため、以下の要領で対策本部業務を実施する。
 - * テレビ・電話会議システムを活用し、極力「人」が集合する会議を減らす。
 - * メール・ファックス等を活用し情報を伝達する。
- フェーズ③に至った場合、混雑した公共交通機関を利用することによる感染のリスクを低減するため、在宅勤務、時差出勤等の処置を講じる。
- 対策本部の要員の社内における感染を防止するため、その他従業員との勤務区画、移動ルート、使用時間帯の区分も検討する。

(6) 感染症対策本部 本部長・副部長・各部の役割一覧

各部は、分掌規程に定められた分掌の他、主に次表の役割を分担する。

| 各 部 | 役 割 分 担 |
|---------------|--|
| 対策本部長 副本部長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症対策本部の立ち上げと統括 ・ 事業継続の可否判断と事業所等の閉鎖判断 ・ 役員会への報告 ・ 対策本部解散の判断 |
| 対策本部事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本部運営全般 ・ 本部メンバーへの連絡 |
| 部門管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 従業員に対する新型コロナウイルス感染症対策の啓蒙 ・ 出張者、出向者の把握と情報伝達 ・ 各種対策の検討と実施 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ . . . |

(7) 感染対応行動等の基準

感染が疑われる場合及び明らかに発症した場合の当社としての対応基準を示す。

| 区分 | 判明場所 | 従業員等の感染 | 従業員等の家族の感染 |
|---------------------------|--------------|---|--|
| 感染者との濃厚接触があった場合 | 全て | <従業員等自身> <input type="checkbox"/> 上司に報告後、保健所の指示に従い14日*2程度自宅で待機し健康状態をモニター (流行地域から帰国した者等) <所属部署> <input type="checkbox"/> 感染が疑われる者の行動特定とモニター | / |
| 37.5度以上の発熱 (発症が疑われる場合) | 自宅 | <従業員等自身> <input type="checkbox"/> 上司に報告後出勤せずに直ちに保健所に連絡・受診 <input type="checkbox"/> 医師の許可があるまで自宅等で療養 | <従業員等の家族> <input type="checkbox"/> 従業員等の家族は直ちに保健所に連絡・受診 <従業員等自身> <input type="checkbox"/> 家族が入院隔離となった場合、従業員等は上司に報告後保健所の指示に従い14日間程度自宅待機し、医師の許可を得て出社 <input type="checkbox"/> 家族が自宅療養となった場合、従業員等は家族の治癒後保健所の指示に従い14日間程度まで自宅待機し、医師の許可を得て出社 |
| | 職場 | <従業員等自身> <input type="checkbox"/> 従業員等は上司に報告し直ちに受診、医師の許可があるまで自宅等で療養 (安全健康管理室・診療所) <input type="checkbox"/> 感染者の届出(指定感染症に指定された場合) <所属部署> <input type="checkbox"/> 発症した従業員等の行動特定とモニター <input type="checkbox"/> 発症者と濃厚接触者の健康状態を、保健所の指示に従い14日間程度モニター <input type="checkbox"/> 発症者が接触した箇所の消毒 <input type="checkbox"/> 感染者に付き添う者に関しては、診療所スタッフを主体に充当 | / |
| | 外出先 (出張先) | <従業員等自身> <input type="checkbox"/> 上司に報告後、帰社せず直ちに受診、医師の許可があるまで自宅等で療養 <所属部署> <input type="checkbox"/> 発症した従業員等の行動特定とモニター <input type="checkbox"/> 発症者と濃厚接触者の健康状態を、保健所の指示に従い14日間程度モニター <input type="checkbox"/> 発症者が接触した箇所の消毒 | <従業員等の家族> <input type="checkbox"/> 家族は直ちに受診 <従業員等自身> <input type="checkbox"/> 家族が入院隔離となった場合、従業員等は上司に報告後保健所の指示に従い14日間程度自宅待機し、医師の許可を得て出社 <input type="checkbox"/> 家族が自宅療養となった場合、従業員等は家族の治癒後保健所の指示に従い14日間程度自宅待機し、医師の許可を得て出社 |
| 治癒した場合 | 全て | <従業員等自身> <input type="checkbox"/> 感染したものの治癒した従業員等は、医師の許可を得た上で職場に復帰 | / |

*2 WHOによると、新型コロナウイルス(COVID-19)の潜伏期間1-12.5日(5-6日が最多)であるが、他のコロナウイルス感染症の事例を考慮し、14日間の隔離を推奨している。

(8) 感染症発生時における海外出張者・駐在者に対する対応方針

| |
|--|
| ① 海外出張に関する方針 |
| 外務省が感染症危険情報レベル2（不要不急の渡航は止めてください。）を発出した際には、以後感染発生国・地域への出張はやむを得ない場合を除いて原則中止する。最終的な渡航可否判断は対策本部が行う。 |
| ② 海外駐在者に関する方針 |
| <p>外務省が在留邦人に対して感染症危険情報レベル2（不要不急の渡航は止めてください。）を発出した場合、駐在員と帯同家族の退避を検討する。</p> <p>従業員はいつでも出国できるように、以下の準備を行っておく。</p> <ul style="list-style-type: none">● 旅券（パスポート）・滞在査証（ビザ）・再入国許可等の有効期限等を確認しておく● 滞在国へ運行している航空会社、近隣の主要空港のホームページなどを頻繁にチェックする● 急遽出国する場合に備え、米ドル・日本円等の外貨の現金を準備しておく <p>新型コロナウイルス感染症発生国・地域から帰国した従業員とその家族に対しては、健康状態のモニタリングを指示し、体調に異変があった場合は直ちに上司に報告するよう指示する。</p> |

第6章 本部および拠点・事業所のアクションプラン

(1) 業務継続の為の基本的枠組みと各フェーズにおける継続業務

業務継続の必要性に応じた業務形態（例）

各部は所管業務を業務継続の必要性および性質により以下の通り分類した上で、業務継続の手法を規定したマニュアルを策定することとする。

| 区 分 | 業務分類 | 業務形態(例) |
|----------|--|---|
| A.優先実施業務 | 事業所において必ず継続しなければなら ない業務 | 宿直や交替勤務 <u>(例)</u> ・データセンター業務：宿直勤務 ・本部要員、生産業務：交代勤 務 |
| B.在宅勤務業務 | 優先実施業務ほどではないが継続すべき 業務 | 在宅勤務（感染拡大防止の観点 で、出社はしない） |
| C.一次休止業務 | （パンデミックの一つの波である2ヶ月 程度であれば）停止もやむを得ない業務 | 業務停止（感染拡大防止の観 点） |

(2) 業務継続に関する確認事項

- 従業員に対して宿直勤務を命じる場合、労働基準法や雇用契約等へ抵触する可能性
- 在宅勤務者に関して社内におけるPC、携帯等モバイル機器の持ち出しルール
- 在宅勤務者における労働時間、電話代等必要経費の取扱い

(3) 継続業務クロストレーニング訓練

優先実施業務、在宅勤務業務において欠勤者が出た場合を想定し、代替要員を交えた継続業務実施訓練を行っておくことが好ましい。特に本社対策本部要員が発症した際に、支障となる継続業務については注意が必要。

(4) アクションプラン

新型コロナウイルス対策についての本社／本部と事業所それぞれの実施事項を、流行の段階毎に分けてリストアップする。（別紙参照）

第7章 教育・訓練

以下の要領で早期に教育・訓練を行う。すべての訓練について、実施時期はフェーズ①とすることが望ましい。

(1) 感染予防に関する社内教育

| |
|---|
| ① 一般従業員向け感染症予防対策教育 |
| 事務局は感染症予防対策教育の総合企画を行い、各事業所等において担当者と診療所医師が教育を実施 |
| ② 診療所スタッフ向け感染症防護実践教育 |
| 新型コロナウイルス等の感染症の概要およびフェーズ③以降の診療所における防護要領について専門家の指導の下実施 |

(2) 感染発生を想定した初動訓練

| |
|--|
| ① 新型感染症対策本部、各事業所対策チーム向け初動訓練 |
| 新型感染症対策本部と各事業所対策チームの要員は、報告・連絡等の初動体制の確認を主体とする机上訓練を実施。 |

(3) 業務継続に係る訓練

| |
|--|
| ① 優先実施業務に係る実地訓練 |
| <ul style="list-style-type: none">優先実施業務の指定を受けた業務は、必要に応じて実地訓練を行う |
| ② 在宅勤務業務に係る在宅勤務の訓練 |
| <ul style="list-style-type: none">在宅勤務業務の指定を受けた業務を担当するラインは、事業所の計画に基づき、訓練を実施訓練方法に関しては、各部長または事業所長が定める訓練は移動通信手段配布以降速やかに実施 |

(4) 教育・訓練の実施報告

実施担当者は、実施後速やかに実施概要・成果を事務局へ報告するものとする。事務局は成果をとりまとめ、必要がある場合には本ガイドラインに記載されている事項の見直し作業を行う。

以上

MEMO

本冊子は、公益財団法人 自動車リサイクル高度化財団の助成を受けて制作しました。

制作：NPO法人 RUMアライアンス
 東京都中央区銀座6丁目6-1 銀座風月堂ビル5F
 TEL/03-6215-8222 FAX/03-6215-8700 URL/https://www.recycle4tour.com/

自動車 リサイクルの 話をしよう

～私たちの現場から～



【コロナ感染予防のために】

- 見学の前に検温をしましょう。また体調が悪いなどは見学生代表者(先生)に知らせてください。
- 見学の際はマスクを着用し、アルコールなどで手を消毒しましょう。
- 移動する際はできるだけ人の距離をとり、あまり密にならないよう注意しましょう。



自動車リサイクルってなあに？

「SDGs(エスディーズ)」という言葉を知っていますか？

2015年国際連合において採択されたSDGs(持続可能な開発目標)には、

2030年までにみんなが幸せに暮らす地球を目指して、

17のゴール(大きな目標)と169のターゲット(より具体的な目標)が掲げられています。

私たちの営む自動車リサイクル業は、そのSDGsの12番目のゴール

「つくる責任、つかう責任」に関わる仕事になります。

これまで人間はいろんな資源を集め、足りなくなるとより深い地下から

掘り出して利用し、その分地球上にはごみが増えています。

また、限りある希少資源は、あと数十年で無くなる(枯渇する)とも言われています。

私たちの自動車リサイクル業は、使える部品を中古部品として再利用し、

使えないものは元の資源に再生する事業の一環を担っています。

使用済自動車(廃車)の部品を再度使うことにより、資源の有効利用と

地球温暖化の要因の二酸化炭素(CO₂)の増加を防ぐ役目もしています。

SDGsの目指す持続可能な開発をお手伝いしているのです。

また、こうした仕事をより効果的に行うには、みんなが協働することが必要です。

SDGsの17番目のゴール「パートナーシップで目標を達成しよう」も、

仕事を担う私たちには大変重要なことと考えています。

今回は私たちの自動車リサイクル工場を見学していただき、

実際の自動車の解体の様子や仕組みを知ると同時に、

地球環境を守るリサイクルの大切さについて学んでみましょう。



SDGs ゴール12「つくる責任 つかう責任」

SDGsのゴール12「つくる責任 つかう責任」は、持続可能な生産と消費を確保することを目的としており、それは少ない資源からできるだけ多くの良いモノが得られる社会を意味しています。ゴール12の中にはいくつかのターゲットがあり、ターゲット2では「天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用」、ターゲット5では「廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する」とあります。これらは自動車リサイクルという仕事をを行う上で、とても大きな指針となっています。

今回はリサイクルの様子を見ていただくと同時に、そこにSDGsの精神がどのように活かされているかも学んでいきましょう。



自動車リサイクル法

「廃棄物の削減」と「資源の有効利用」を目的として、自動車購入者が「自動車リサイクル料金」を払い、シュレッダーダスト、エアバッグ、フロン類などを適正にリサイクル・処理するための法律です。この法律により、日本では使われなくなった車はほぼ100%回収され、その95%がリサイクルされています。



日本のリサイクル文化(江戸時代のSDGs)

日本では古く江戸時代からリサイクルという考え方(=文化)があり、約100万人の人々が暮らしていた江戸の町では、壊れてしまった器具を修理する仕事や古書、古紙の流通が盛んに行われていました。こうした文化の背景には、自然や動植物などありとあらゆるモノを大切にしない「もったいない」という気持ち、また「あとしまつ」するという日本古来の考え方があったことは間違いないと思います。私たちはリサイクルの現場を通じ、これらの言葉を世界の共通語とする大きな夢に挑戦しています。

今日見学する自動車リサイクルの現場で働く人たちも、この「もったいない」「あとしまつ」という気持ちを誇りとして、地球環境を守るために知恵を絞り、日々一生懸命働いています。

Contents

- 使用済みの自動車はどうなるの? 3
- 工場を見学してみよう! 5
- 産業とリサイクルの関係 7
- 自動車リサイクルと私たちの未来 9
- 世界の自動車を再資源化する 10

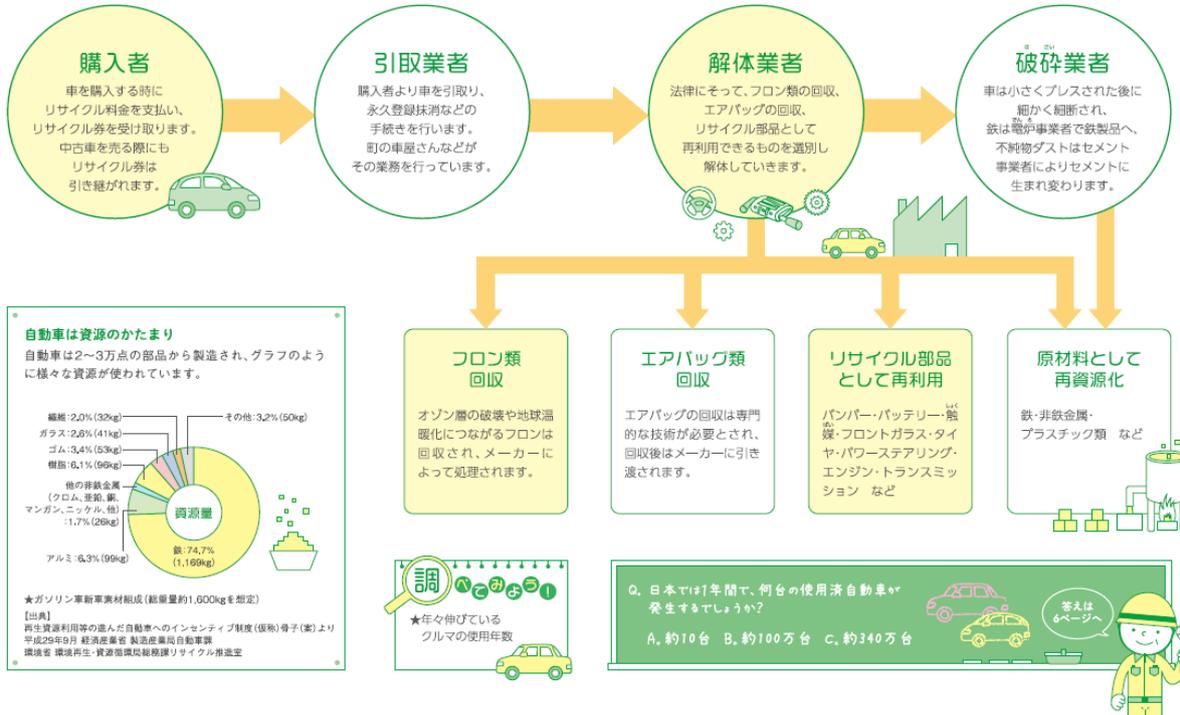
【掲載内容について】

当冊子は小学校高学年から一般の方までを対象に、自動車リサイクルについて分かりやすくまとめています。もっと詳しくお知りになりたい方は、担当者にお気軽にご質問ください。



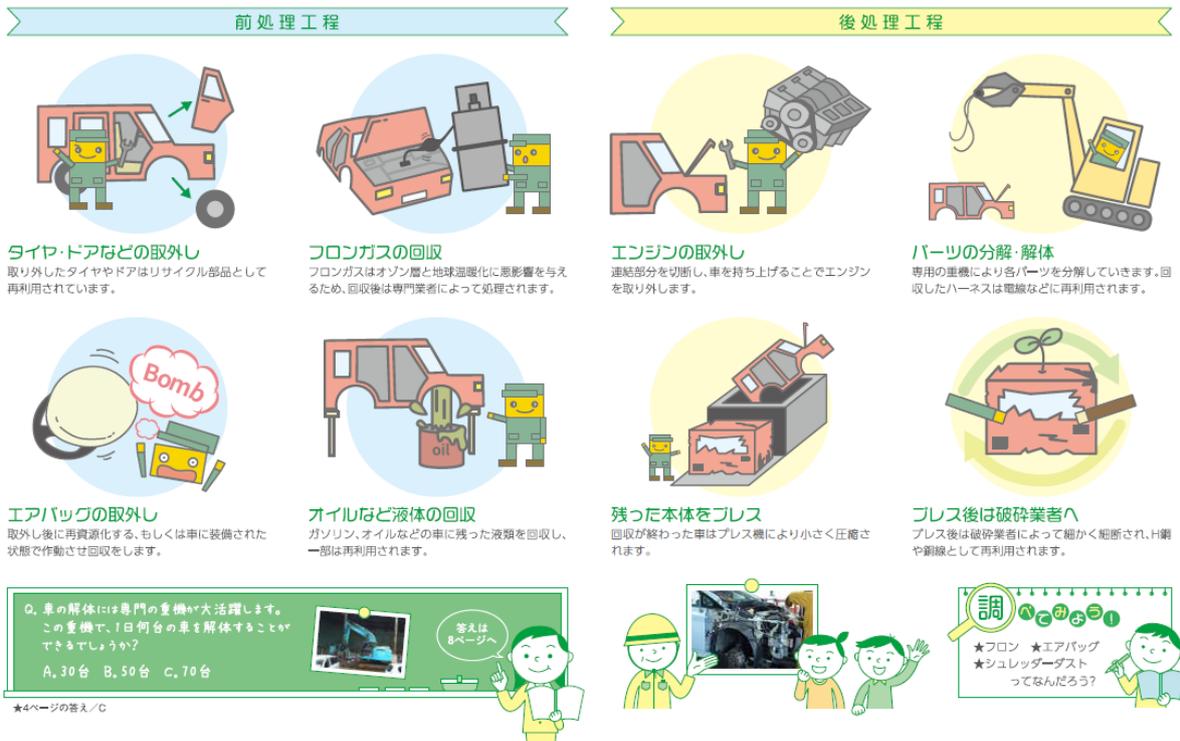
使用済みの自動車はどうなるの？

車は「資源のかたまり」といわれるほど、多くの資源から作られています。廃車となった車は自動車リサイクル法に従って専門の業者が処理を行います。部品や資源として再利用しリサイクルするための大切な作業です。

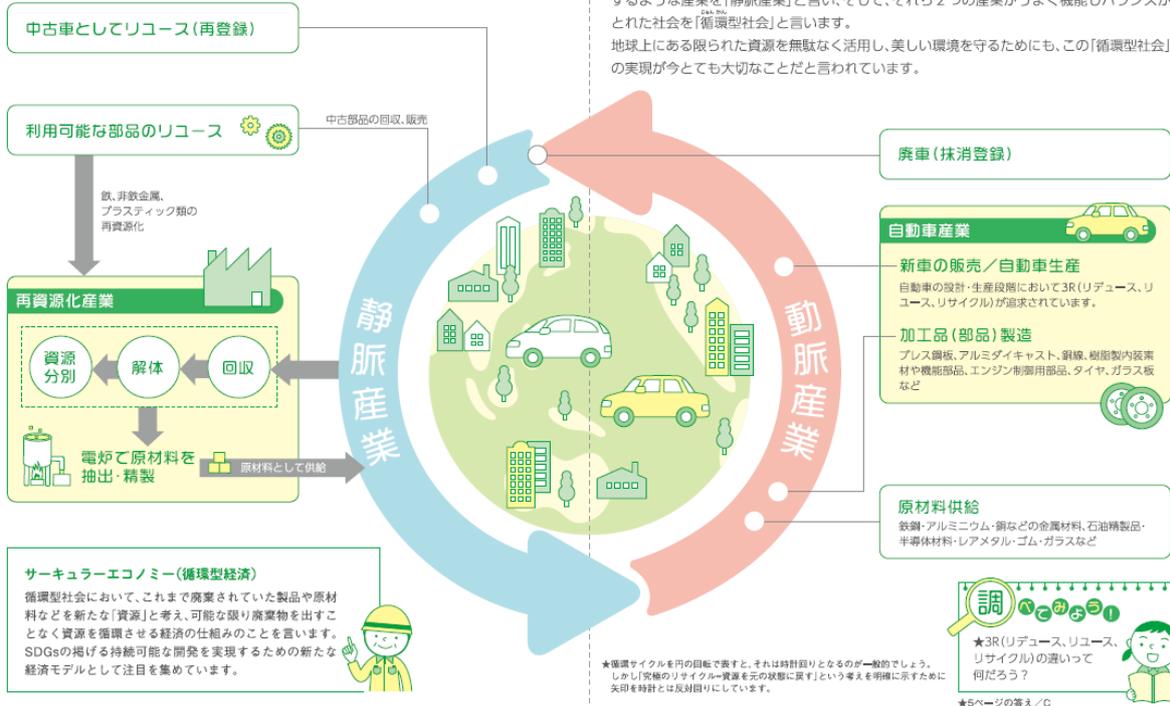


工場を見学してみよう！

それでは自動車リサイクルの現場を実際に見てみましょう。自動車の解体は専門の技術を持った社員さんが担当します。お話をよく聞き、安全に注意しながら見学しましょう。



産業とリサイクルの関係



自動車リサイクルと私たちの未来

現在、日本を走る自動車は約7800万台*。車は私たちの生活に密着したものとなりました。

でも車は走るときにCO₂(二酸化炭素)などの排気ガスを出してしまうし、世界的に見ると発展途上の国ではリサイクルの技術も充分には普及していません。そのため自動車メーカーでは、電気で走る車(EV化)や燃料電池車の開発、新素材の活用に加えて、リサイクルより得られた資源を再利用するなど、より安全で環境に優しいクリーンな車の開発を目指しています。

確かな技術と理想実現のためのたゆまぬ努力が地球の環境を守り、未来の子孫へとつながっていく。リサイクルは人とモノを、そして時代をつなぐ大きな役割を担っています。

*一般財団法人自動車検査登録情報協会 2018年調べ(二輪車は除く)

リサイクルの仕組みを日本から世界へ

IREC(国際リサイクル教育センター)には海外から政府関係者、大学教授、専門技術者等多くの方が研修に参加しています。リサイクルの大切さ、日本のリサイクル文化が世界に広がっていきます。



JICA(国際協力機構)の支援の下で海外から受講生を受入れ実施した教育訓練(2010年以降)

- 2010年2月/中南米4か国(ブラジル、アルゼンチン、コロンビア、メキシコ):14名
- 2012年3月/ナイジェリア:10名
- 2013年5月~6月(2回)/ナイジェリア:合計24名
- 2013年7月/コンゴ民主共和国:8名
- 2014年11月/フィリピン:8名(民間企業主導)
- 2016年6月(2回)/ブラジル:合計23名
- 2017年11月/マレーシア:8名
- 2018年10月/マレーシア:12名

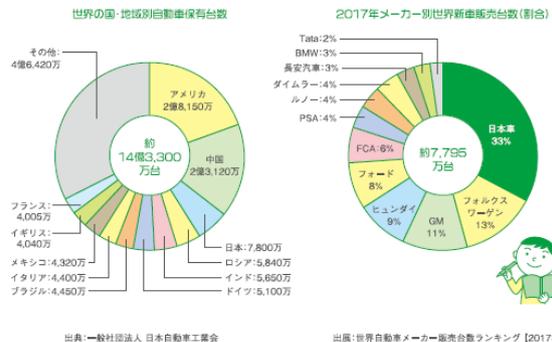
★地球にやさしい暮らし方について考えてみよう。

世界の自動車を再資源化する

世界で走っている日本車の割合は約30%と言われます。日本から世界に送り出された車が不法投棄され各地の環境破壊につながっているとしたら、これほど悲しいことはありません。私たちは製造責任に留まらず、あとしまつにも責任を負うのが本来の姿だと考えています。

例えば、日本では総保有台数7,800万台の自動車のうち、毎年約340万台*が廃車・処理されていますが、それらは決して不法投棄されることなく、完璧にリサイクルに回されています。このシステムを世界中の人たちと共有し、環境に優しい自動車社会を目指す...、それが私たちの使命です。

*公益財団法人自動車リサイクル促進センター 2019年調べより



会宝ワクワク工場見学 実施報告

実施概要

- 名称 ワクワク工場見学
- 開催日程 8月22日/29日
- 開催時間 9時30分～11時30分
13時30分～15時30分
- 開催場所 本社工場（工場見学）
2階会議室（ワークショップ）
- 実施内容 自動車リサイクル工程の見学（工場見学）
自動車部品を使ったリサイクルアイテムの製作（ワークショップ）

実施目的

コロナウイルス感染拡大防止の為、毎年開催のリサイくるまつりを中止とするがただ中止とするのではなく違う形で「喜ばれる、学べる場」を考え、迫力のある生のリサイクル現場を見ていただくと共に、自動車リサイクルを学び、自動車部品を使用したアイテムの製作をする事でリサイクルを楽しんでいただく。

募集要項

22日 29日の両日午前と午後に分け、各定員5組、限定20組の募集。
新聞掲載とSNSで告知し、QRコードを使用した申込をおこなう。
結果は当選と落選共にメールで通知。
当選の際は詳細も含め案内を記載し、落選の場合は弊社案内を記載し通知をおこなう。

受付

お客様が車内で受付できるようQRコードで案内。
開始時刻まで車内で待機していただき、1組ずつ誘導する。
社外に出る際に、検温をおこない体温を確認する。
また、撮影と弊社SNS等での写真使用許可の是非を確認しNGの場合は印を掛ける（受付時に承諾をいただく）

工場見学

パンフレットを元に進行する。
液処理→前処理→解体→重機→倉庫→コンテナ
最後にフォークリフトの試乗と写真撮影の時間を設ける。

スタッフは案内役と誘導警備を含め3～4名で案内し、各セッション担当がお客様に説明をおこなう。

ワークショップ

シートベルトを使用したペットボトルホルダーの製作をおこなう。
スタッフは指導役として3～4名配置し、製作の補助に当たる。

最後に弊社の会社説明をおこない、パンフレットの配布をする。

コロナ感染拡大対策

……受付……

3密にならないよう、車内でお客様のスマートフォンでQRコードを使用した受付で1組づつ案内をおこなう。

……工場見学……

案内役と説明役はフェイスガードを装着し、接触のある箇所には除菌スプレーを設置。

フォークリフトの試乗の際は1名ごとに除菌する。

……ワークショップ……

社内へ入る際は使い捨てスリッパを提供し、使用後は持ち帰っていただく。
指導役はフェイスガードを装着し、接触のある箇所には除菌スプレーを設置。
各テーブルは2M以上の間隔で設置し、常時換気をおこなう。

各回、前半と後半に分け密を回避する。

A 工場見学→ワークショップ

B ワークショップ→工場見学

参加人数

22日 午前A 4組 大人7名 小人6名

B 2組 大人4名 小人3名

午後A 4組 大人6名 小人5名

B 3組 大人6名 小人5名

29日 午前A 2組 大人2名 小人3名

B 2組 大人3名 小人4名

午後A 2組 大人4名 小人7名

B 3組 大人6名 小人6名

両日合計 22組 大人38名 小人39名 77名の参加となりました。

自動車リサイクル工場見学実施報告書（月間）

「自動車リサイクル工場見学紹介サイト」にご協力いただいた各位へのお願いです。

ご協力いただいたサイトの効果測定のため以下のご報告をお願いいたします。

* 見学を受入れたすべての団体をご記入ください。

* その中で「自動車リサイクル工場見学紹介サイト」をきっかけに見学となった場合は、きっかけ欄に（サイト）とご記入ください。

御社名：

ご担当名：

2021年 月度

| 日（曜） | 見学団体名 | 受入数 | 工場見学のきっかけ |
|------|-------|-----|-----------|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

○ご報告送付先



2021年1月12日

工場見学受入ご担当者様

特定非営利活動法人 RUM アライアンス
代表理事 赤須洋一郎

工場見学受入担当者スキルアップ研修並びに意見交換会のご案内
—自動車リサイクル現場来訪者を通して理解を深めていただくために—

新年あけましておめでとうございます。新しい年を機に是非 With Corona に対応した新たな活動を進めたいものです。

さて、旧年自動車リサイクル高度化財団から採択頂いた事業の一環として、「自動車リサイクル工場見学紹介」サイトの新設 <https://www.recycletour.com/> をご案内しました。

このサイトにはこれから来訪者に手渡す小冊子など順次関連する資料を加えることになっております。

つきましては、見学を受け入れている企業の担当者様にこれからのサイトの展開と内容をお知らせすると共に、活用していただくための説明（研修）の機会を設け、更に受入業務を担う方の意見交換の場とするために下記の研修会を WEB 会議システムにより企画しました。

年始ご多用の折とは存じますが、次ページもご覧いただき是非ご参加いただきますようお願いいたします。

記

工場見学受入担当者スキルアップ研修並びに意見交換会

○日時：2021年1月26日（火）13:00～15:30

○Web 会議システム「ZOOM」使用

*別紙「参加申込み」を頂いたら前日までに招待 URL をメールでお送りします。

*詳細は、次ページをご覧ください。

○資料等

・参加申込みいただいた方には、前日までに会合で使用する資料（次ページ）をメール添付でお送りします。

○お問合せ先：疑問等お問合わせは次のメールおよび Tel にお願ひします。



次ページ ⇒

工場見学受入担当者スキルアップ研修並びに意見交換会の次第と参加申込書

○研修の次第

1. 事例発表：久保田オートパーツ株式会社（宮崎県）
10年以上前から工場見学を受入れ年間3,000名以上（2018年）の受入れ会社の事例を動画も含めて発表します。
2. 工場見学受入の手引きの説明
見学を受入れている会社の事例をもとに3部編成で作成した手引きを初めて説明します。
3. With Corona の下での感染症対策に対応した見学の受入れの事例を、動画と緊急に制作した感染症対策ガイドラインをもとに説明します。
4. 見学来訪者に手渡す小冊子の説明
この度の高度化財団からの支援で制作した小冊子の説明とこれからの活用について意見交換します。
5. その他
 - ・コロナ情勢とバーチャル工場見学の検討について
6. 担当者、関係者の意見交換会

以上

○参加のお申込は別紙をご利用ください。

別 紙

工場見学受入担当者スキルアップ研修並びに意見交換会

○日時：2021年1月26日（火）13:00～15:30

○Web 会議システム「ZOOM」使用

参加申込書

会社名：_____

連絡担当者部署名：_____

連絡担当者氏名：_____

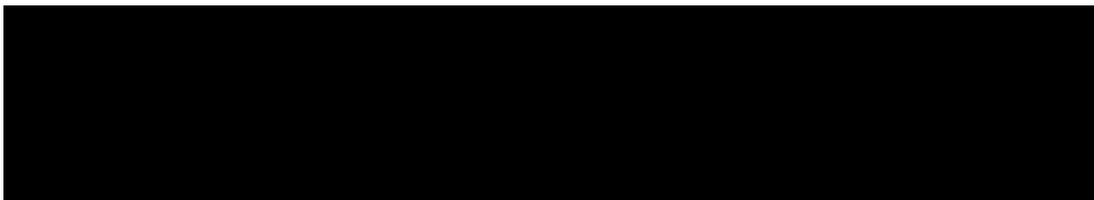
連絡 e-mail：_____

電話連絡先：_____

*参加は1社3名までとします。

| 参加者氏名 | 所属部署名 | 受入経験有無 |
|-------|-------|--------|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

○お申し込み先



工場見学受入担当者スキルアップ研修並びに意見交換会の次第

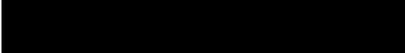
○はじめに

- ・研修に至る経緯のご説明
- ・本研修と意見交換会の目的

○研修の次第

1. 事例発表：株式会社 久保田オートパーツ（宮崎県）

10年以上前から工場見学を受入れ年間3,000名以上（2018年）の受入れ会社の事例を動画も含めて発表します。

- ・発表：(株)久保田オートパーツ 

2. 工場見学受入の手引きの説明

見学を受入れている会社の事例をもとに3部編成で作成した手引きを説明します。

3. 見学時の感染症対応

With Corona の下での感染症対策に対応した見学の受入れの事例を、動画と緊急に制作した感染症対策ガイドラインをもとに説明します。

- ・説明：カーレポ(株) 経営戦略本部ブランドマネジメント課 小林奈保子さん

4. 見学来訪者に手渡す小冊子の説明

この度の高度化財団からの支援で制作した小冊子の説明とこれからの活用について意見交換します。

5. その他

- ・コロナ情勢とバーチャル工場見学の検討について（参加者と検討します。）

6. 担当者、関係者の意見交換会

以上

裏面へ→

(添付資料)

- ・工場見学受入の手引き (PP 資料、メール添付)
- ・感染症対策ガイドライン (メール添付)
- ・小冊子「自動車リサイクルの話をしよう」—私たちの現場から— (レターパックで送付)

○自動車リサイクル工場見学受入担当者スキルアップ研修参加企業名

■講師・発表者・進行役：

| 所属 | 役職 |
|-------------------|---|
| 株式会社 久保田オートパーツ | 久保田代表取締役 |
| 株式会社 久保田オートパーツ | 国内部品生産課、 XXXXXXXXXX |
| カーレポ 株式会社 | 赤須代表取締役 |
| カーレポ 株式会社 | 経営戦略本部ブランドマネジメント課、 XXXXXXXXXX |
| 会宝産業 株式会社 | 近藤代表取締役 |
| NPO 法人 RUM アライアンス | 事務局 |

■スキルアップ研修：受講生名簿、連絡先（13工場、23名受講）

| 所属 | 役職 |
|---------------------------------|----------------------|
| 株式会社 永田プロダクツ | 総務部 企画課 |
| 石上車輛 株式会社 | 恵庭工場 2名 |
| 三木資源 株式会社 | 代表取締役社長 |
| 株式会社 ナプロアース | 総務部庶務課 |
| 有限会社 オートリサイクルナカシマ福岡 | 生産課 3名 |
| 株式会社 浜田 | 東京支社長 |
| 株式会社 エコアール | 総務部、国内販売部 3名 |
| 株式会社 高橋商会 | 総務課 |
| 飛田テック株式会社 新潟オートリサイクルセンター上越 | 業務部 3名 (業務部センター長) |
| 飛田テック株式会社 新潟オートリサイクル センター 下越 | 業務部 2名 |
| 有限会社 近松商会 | 国内部品販売 |
| 株式会社 鈴木商会 | ELV 事業部 ELV 道中央支店 |
| 株式会社 リーテックス | 3名 |
| | |

添付資料 17

●自動車リサイクル工場見学受入担当者スキル UP 研修受講アンケート

今回の「工場見学受入担当者スキル UP 研修並びに意見交換会」にご参加いただきありがとうございます。今後もこのような研修を続けたく計画しております。

つきましては参考のためご参加の皆様のご意見、ご感想をお聞かせください。

御社名： _____ 参加者名： _____

- ・ 今回の「受入担当スキル UP 研修」の評価を 5 段階で選んでください。
良かった 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 悪かった
- ・ 今回の研修の内容でよかった発表、説明、資料はどれですか。(複数チェック OK)
 - 事例発表 (久保田オートパーツ)
 - 工場見学受入の手引き
 - 見学時の感染症予防対策 (カーレポ)
 - 見学来訪者に手渡す小冊子
 - 意見交換会
 - その他 (_____)
- ・ どのような点を考慮したら上記の評価のポイント上げることができますか。
- ・ 2021 年度 (4 月以降) にはこのような研修を年 2 回計画しています。ご参加頂けますか。
参加したい ・ 参加したくない ・ 内容による
- ・ この内容が知りたい、こうした方がいい等のご意見がありましたらお書きください。
- ・ そのほか研修についてのご感想を自由にお書き下さい。

○ご回答送付先

